

令和4年度

訓子府町教育委員会の活動状況
に関する点検・評価報告書

令和5年6月

訓子府町教育委員会

はじめに

令和4年度訓子府町教育委員会の活動状況に関する点検・評価の取組方針

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、各市町村教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行について点検を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することになっております。

このことから、訓子府町教育委員会としては、効果的な教育行政の推進に資するために、令和4年度に教育委員会が行った活動状況や、実施した事務事業の点検・評価を行うとともに課題を洗い出し、客観性の確保の観点から、社会教育委員の方々からの意見をいただき、課題解決に向けた取り組み方をわかりやすく記載いたしました。

報告については、町議会において報告するとともに、一般への公表は図書館等での縦覧のほか、町ホームページへの掲載により行っております。

訓子府町教育委員会は、この点検・評価の実施を通して、施策の効果の検証と改善を図りながら、積極的に教育行政の推進に努めていきたいと考えておりますので、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和5年6月

訓子府町教育委員会

目 次

1. 教育委員会の活動状況	
(1) 教育委員会議の開催状況	1
(2) 総合教育会議の開催状況	4
(3) 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の活動状況	4
(4) 条例の制定状況	5
(5) 規則・要綱等の制定状況	5
2. 教育長・教育委員の活動状況	6
3. 学校への情報提供、協議等の状況	8
4. 予算・学校教育関連事業の状況	
(1) 教育費事業予算	11
(2) 学校教育関係の主な事業	12
5. 給食センターの運営状況	18
6. 社会教育各種委員の活動状況	
(1) 社会教育委員	20
(2) スポーツ推進委員	20
7. 社会教育の活動状況	
(1) 青少年教育推進事業	21
(2) 成人教育推進事業	26
(3) 高齢者教育推進事業	30
(4) 芸術・文化振興事業	31
(5) 社会教育一般事業	34
(6) 公民館開館40周年記念事業	35
8. 図書館の活動状況	
(1) 図書館活動事業	36
9. 社会体育の活動状況	
(1) 社会体育推進事業	44
10. 社会教育・社会体育施設等整備事業	50

11. 認定こども園		
(1) 入園児の状況	52
(2) 日課表の編成・管理	52
(3) 職員構成	53
(4) 活動状況	53
12. 児童センター		
(1) 目的・現状	59
(2) 利用実績	59
(3) 活動状況	59
13. 子育て支援センター		
(1) 目的・現状	61
(2) 利用実績	61
(3) 活動状況	61

1. 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会議の開催状況

訓子府町教育委員会の会議は、原則公開で開催することになっており、本年度は10回開催しています。この会議において教育行政執行方針、本町における教育の基本的な考え方、町立学校や社会教育施設の整備をはじめとする教育環境整備等の教育費予算の提案、教育に関する条例・規則等の制定、教育関係委員の任命、奨学生の決定など、教育行政に関する様々な議題について審議しています。

期 日 (出席数)	付 議 案 件 等
令和4年4月22日 (教育長・教育委員3人)	(議案) <ul style="list-style-type: none">・ 令和4年度教育費予算の補正について(第1回臨時町議会提案分)・ 令和4年度民生費予算の補正について(第1回臨時町議会提案分)・ 訓子府町教育支援委員会委員の委嘱について・ 訓子府町学校運営協議会委員の任命について・ 訓子府町奨学資金貸付審査委員会委員の委嘱について・ 訓子府町社会教育委員等の委嘱並びに任命について・ 訓子府町スポーツ推進委員の委嘱について (協議連絡事項) <ul style="list-style-type: none">・ 令和3年度社会教育施設・体育施設等利用状況について
令和4年5月27日 (教育長・教育委員4人)	(議案) <ul style="list-style-type: none">・ 訓子府町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担額を定める条例施行規則の制定について・ 令和3年度訓子府町教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告について・ 令和4年度教育費予算の補正について(第2回定例町議会提案分)・ 令和4年度民生費予算の補正について(第2回定例町議会提案分)・ 訓子府町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について・ 令和4年度採用奨学生の選定について・ 令和4年度準要保護児童生徒の認定について (協議連絡事項) <ul style="list-style-type: none">・ 令和4年度公立高等学校配置計画について・ 令和4年度高知県津野町との交換留学事業について・ 部活動指導の地域移行について・ GIGAスクール(ICT教育)の状況について
令和4年7月7日 (教育長・教育委員3人)	(報告) <ul style="list-style-type: none">・ 令和4年度第2回定例町議会における一般質問等について (議案) <ul style="list-style-type: none">・ 令和4年度準要保護児童生徒の認定について (協議連絡事項) <ul style="list-style-type: none">・ 公立高等学校配置計画(案)について・ いじめ把握のためのアンケート調査について・ 第1回訓子府町学校運営協議会について・ アート・タウン・プロジェクトについて

期 日 (出席数)	付 議 案 件 等
令和4年8月31日 (教育長・教育委員4人)	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度教育費予算の補正について(第3回定例町議会提案分) ・ 令和4年度民生費予算の補正について(第3回定例町議会提案分) ・ 令和5年度使用教科用図書採択について ・ 令和5年度使用教科用図書(特別支援学級用教科用図書新規分)の採択について ・ 令和4年度準要保護児童生徒の認定について (協議連絡事項) ・ 全国学力・学習状況調査結果について ・ 体力・運動能力調査結果について ・ 訓子府高等学校存続の取組について ・ 中体連の結果について
令和4年9月26日 (教育長・教育委員4人)	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訓子府町教育委員会教育長の任命について ・ 訓子府町教育委員会委員の任命について ・ 訓子府町総合計画実施計画の町長ヒアリング実施について ・ 令和4年第3回定例町議会における一般質問等について (議案) ・ 令和4年度訓子府町文化・スポーツ表彰者の選定について ・ 訓子府町スポーツセンター使用料の減免について ・ 令和4年度準要保護児童生徒の認定について (協議連絡事項) ・ 公立高等学校配置計画について
令和4年11月2日 (教育長・教育委員4人)	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度教育費予算の補正について(第4回臨時町議会提案分)
令和4年11月30日 (教育長・教育委員4人)	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度当初教職員人事について ・ 学校運営協議会開催状況について (議案) ・ 令和4年度教育費予算の補正について(第4回定例町議会提案分) ・ 令和4年度民生費、衛生費予算の補正について(第4回定例町議会提案分) (協議連絡事項) ・ いじめ把握のためのアンケート調査(2回目)について ・ 社会教育施設の利用状況について
令和4年12月21日 (教育長・教育委員4人)	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年第4回定例町議会における一般質問等について (議案) ・ 令和5年度教育費等に係る主要事業予算要求について (協議連絡事項) ・ 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果及び公表について

期 日 (出席数)	付 議 案 件 等
令和5年2月17日 (教育長・教育委員4人)	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公立高等学校等の出願状況について ・ 令和5年度当初教職員人事について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度教育費予算の補正について(第1回定例町議会提案分) ・ 令和4年度民生費、衛生費予算の補正について(第1回定例町議会提案分) ・ 令和5年度教育費予算の見積りについて ・ 令和5年度民生費、衛生費予算の見積りについて ・ 令和5年度就学援助費新入学用品費入学前支給の認定について(協議連絡事項) ・ 体罰に係る実態把握調査結果について ・ 中体連等の結果報告について ・ 町内各学校の卒業式・入学式等の出席について
令和5年3月23日 (教育長・教育委員4人)	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種計画の策定について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度当初教職員人事について ・ 令和5年度こども園・小学校・中学校の学級編制について ・ 訓子府町学校評議員の委嘱について ・ 学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について ・ 令和5年度学校給食費の決定について ・ 訓子府町パークゴルフ場使用料の減免について ・ 訓子府町スポーツセンター使用料の減免について ・ 教育委員会事務局等職員の任免について(4月1日付) <p>(協議連絡事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度訓子府中学校卒業生の進路状況について ・ 令和5年度教職員辞令交付式について ・ 各学校入学式等について

(2) 総合教育会議の開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い、町長と教育委員会が教育のあるべき姿を共有するため「総合教育会議」を設置し、町の教育学術及び文化の振興に関する総合的な施策について協議を行いました。本年度は1回開催しています。

期 日 (出席数)	付 議 案 件 等
令和4年12月21日 (町長・教育長、 教育委員4人)	(議案) ・こども園を含む各学校の教育活動について(現地視察) ・令和5年度教育費予算の主要事業について ・アート・タウン・プロジェクトについて ・訓子府町公民館40周年記念事業について

(3) 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の活動状況

学校運営協議会は、保護者及び地域住民が学校運営に積極的に参画することにより、学校と地域が目標を共有し、学校運営への必要な支援について協議することにより、学校と地域が連携・協力し、地域とともにある学校づくりに取り組む組織として活動しています。本町は全体で1つの学校運営協議会を設置し、こども園・訓子府小学校・居武士小学校・訓子府中学校に部会を設置し、さらに、北海道訓子府高等学校とも連携を図りながら訓子府スタイルのコミュニティ・スクールを推進しています。本年度は3回開催しています。

期 日 (出席数)	付 議 案 件 等
令和4年5月23日 (委員他24名)	(協議案件等) ・正副会長の互選 ・学校運営協議会について ・各学校の学校経営方針について ・「ふるさと教育」に関わる取り組みについて ・「学校支援地域本部事業」「学校応援団」について ・安全パトロール「ながら見守り」について ・部活動の段階的・地域移行について
令和4年11月7日 (委員他21名)	(協議案件等) ・経過報告 ・令和4年度前期学校評価結果について、訓高の活動について (グループ協議) ・中学校部活動の地域移行について ・一人一台端末の家庭での利用についてや家庭でのメディアの接し方について
令和5年2月16日 (委員他24名)	(協議案件等) ・経過報告 ・令和4年度 こども園・各学校の学校評価等について ・各協議会委員から
地域学校協働活動 各小中学校・訓子府高校・認定こども園・児童センターへのスクールサポーター派遣 読み聞かせ、農業指導、陶芸指導、スキー授業支援、学習支援など 合計171回、218人	

(4) 条例の制定状況

令和4年度に議会において議決された教育委員会所管の条例は0件です。

議会の開会日	種別	条例の名称	施行日
-	-	-	-

(5) 規則・要綱等の制定状況

令和4年度に会議で制定された教育委員会所管の規則・要綱・規程等は1件です。

会議の開催日	種別	規則等の名称	施行日
令和4年5月27日	規則	訓子府町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担額を定める条例施行規則の制定について	R4.5.27

現状・成果	令和4年度の教育委員会議の議件等については、議案が40件、報告11件、協議事項が23件について審議が行われました。また、平成27年度から設置しています総合教育会議については、これからの教育のめざす姿や教育に関する重要な施策について、町長部局との意見交換や情報共有を図りました。 さらに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染症対策費の補正予算などの案件に対して迅速に審議が行われました。
課題・方策	教育委員は、それぞれ生業をもちながら委員活動を行っていることから、議件の内容把握と会議の効率化を図ることが必要です。そのために、議案の事前配布と重要案件については、事前の情報提供などを行っています。また、教育の在り方やこれから向かう方向性などについて、学習や研修を行いながら、委員間の議論と丁寧な審議が必要です。

2. 教育長・教育委員の活動状況

委員は、概ね月1回の定例会や学校訪問等の活動のほか、各学校の卒業式等にも出席しています。学校訪問については、重点推進事項及び教育活動等について説明を受けるとともに、児童生徒の学習状況を参観しています。

開催日	内 容	開催場所	出席数
令和4年4月2日	教職員辞令交付式	公民館	5人
令和4年4月4日	認定こども園入園式	認定こども園	5人
令和4年4月6日	訓子府小学校入学式	訓子府小学校	2人
令和4年4月6日	居武士小学校入学式	居武士小学校	2人
令和4年4月6日	訓子府中学校入学式	訓子府中学校	4人
令和4年4月8日	訓子府高等学校入学式	訓子府高等学校	1人
令和4年5月9日	開拓記念日のつどい	居武士小学校他	2人
令和3年5月14日	認定こども園運動会	こども園グラウンド	5人
令和4年5月18日	訓子府高等学校公開授業	訓子府高等学校	4人
令和4年5月29日	訓子府中学校運動会	訓中グラウンド	4人
令和4年6月4日	訓子府小学校運動会	訓小グラウンド	3人
令和4年6月4日	居武士小学校運動会	居小グラウンド	3人
令和4年6月18日	認定こども園運動会	こども園グラウンド	4人
令和4年6月24日	居武士小学校公開授業	居武士小学校	1人
令和4年6月30日	第1回学校訪問	各小中学校 認定こども園	5人
令和4年7月22日～23日	訓子府高等学校学校祭	訓子府高等学校	3人
令和4年7月14日～15日	北海道市町村教育委員会研修会及び道内視察研修	札幌市ほか	4人
令和4年10月13日	訓子府高等学校公開授業	訓子府高等学校	4人
令和4年10月22日	訓子府中学校学校祭	訓子府中学校	3人
令和4年10月23日	居武士小学校学芸会	居武士小学校	3人
令和4年11月3日	功労者等顕彰式	公民館	5人
令和4年11月12日	訓子府小学校学芸会	訓子府小学校	3人
令和4年11月16日	認定こども園発表会(分散開催・3歳児)	認定こども園	4人
令和4年11月18日	認定こども園発表会(分散開催・4歳児)	認定こども園	1人
令和4年11月22日	認定こども園発表会(分散開催・5歳児)	認定こども園	2人
令和4年11月30日	北見ブロック教育委員研修会	北見市端野総合支所	4人
令和4年12月21日	第2回学校訪問	各小中学校 認定こども園	5人
令和5年1月8日	二十歳の式典	公民館	5人
令和5年1月19日	オホーツク管内市町村教育委員大会	網走市	4人
令和5年2月4日	姉妹町交換留学生歓迎セレモニー	公民館	2人
令和5年2月10日	居武士小学校公開授業	居武士小学校	3人
令和5年2月17日	教育懇談会	総合福祉センター	5人
令和5年2月20日～22日	教育委員道外研修	東京都・群馬県・栃木県	4人
令和5年2月28日	認定こども園おたのしみ会(分散開催・2歳児)	認定こども園	2人

開催日	内 容	開催場所	出席数
令和5年3月1日	訓子府高等学校卒業式	訓子府高等学校	1人
令和5年3月3日	認定こども園おたのしみ会(分散開催・1歳児)	認定こども園	2人
令和5年3月4日	認定こども園おたのしみ会(分散開催・0歳児)	認定こども園	2人
令和5年3月15日	訓子府中学校卒業式	訓子府中学校	3人
令和5年3月20日	訓子府小学校卒業式	訓子府小学校	3人
令和5年3月23日	認定こども園卒園式	認定こども園	3人
令和5年3月24日	居武士小学校卒業式	居武士小学校	5人

※教育長だけが関係する会議等の出席は除く。

3. 学校への情報提供、協議等の状況

原則毎月開催の校長会議・教頭会議において、情報提供や助言及び教育課題の協議を行っています。また、北海道教育委員会や各種団体からの会議・研修会等の開催、各種通知等についての情報提供を行っています。

校長会等の会議開催状況

期 日	協 議 事 項
令和4年 4月13日	校長・教頭合同会議 (協議・連絡事項) ・学校評議員等の委嘱について ・令和4年度社会教育・社会体育事業等(学校関連)について ・教育専門員の活用について ・高知県津野町との交換留学事業について ・令和4年度当初管内公立小中学校教職員人事異動の概要について ・学校教育指導について ・学校経営指導訪問について ・全国学力・学習状況調査の実施について ・教育課程編成届書について ・管理課事務担当について ・GIGAスクールについて ・町長、議員、教育委員会等への文書送付について ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策 今後の学校行事等の考え方について
令和4年 5月10日	校長会議・教頭会議 (協議連絡事項) ・教育委員の学校訪問について ・第2回定例町議会について ・人事評価制度について ・公立学校配置計画地域別検討協議会の資料について ・学校行事(運動会等)について ・ICTにかかわって(持ち帰り・リモート・ルーターの状況)
令和4年 6月22日	校長会議・教頭会議 (協議連絡事項) ・教頭・主幹教諭昇任候補者について ・第2回定例町議会における一般質問等について ・新型コロナウイルス感染症対策 ・第2回公立学校配置計画地域別検討協議会について ・教職員健康診断について
令和4年 7月13日	校長会議・教頭会議 (協議・連絡事項) ・夏季休業に向けての児童生徒の指導等について ・夏の交通安全運動の実施について ・夏季休業中の施設維持管理等について ・高知県津野町との交換留学事業について ・くねっぶ学「学校応援団」・「町内公共施設」見学バスツアーについて ・いじめ問題第1回アンケート調査結果について

期 日	協 議 事 項
令和4年 8月18日	<p>校長会議・教頭会議 (協議・連絡事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果について ・体力・運動能力、運動習慣等の結果について ・第3回定例町議会について
令和4年 9月21日	<p>校長会議・教頭会議 (協議・連絡事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回教育委員による学校訪問について ・秋の交通安全運動について ・休校措置の決定と連絡体制について ・人事評価について ・第3回定例町議会における一般質問について ・スクールバス部活動便の運行について ・公立高校配置計画について
令和4年 10月13日	<p>校長会議・教頭会議 (協議・連絡事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度当初人事について ・教育委員の第2回学校訪問について ・会計年度任用職員（臨時講師、特別教育支援員、事務補助員について ・教育長面談について
令和4年 11月17日	<p>校長会議・教頭会議 (協議・連絡事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度年度当初教職員人事について ・第4回定例町議会の日程について ・コロナ感染症の対応等について ・いじめの問題アンケート調査結果（2回目）について
令和4年 12月20日	<p>校長会議・教頭会議 (協議・連絡事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回定例町議会における一般質問について ・冬季休業に向けての児童生徒の指導等について ・教職員の服務規律の厳正な保持について ・教職員住宅入居マナーについて
令和5年 1月17日	<p>校長会議・教頭会議 (協議連絡事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校職員人事評価事務について ・卒業証書授与式並びに修了式、離任式、入学式の対応について ・各校の次年度年間行事の調整について ・教育懇談会について ・学校運営協議会、幼小中高連携交流懇談会の日程等について
令和5年 2月16日	<p>校長会議・教頭会議 (協議・連絡事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度当初教職員人事について ・入卒業式の適正な執行について ・第1回定例町議会について ・令和5年度学校関係予算について

期 日	協 議 事 項
令和 5 年 3 月 22 日	<p>校長会議 (協議・連絡事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 5 年度当初教職員人事について ・ 令和 5 年度学校関係予算について ・ 令和 5 年度小中学校等の学級編成について ・ 令和 5 年第 1 回定例町議会における一般質問等について ・ 教職員住宅の入退去に係る手続きについて ・ 臨時講師、特別支援教育支援員、事務補助員について ・ 教育課程編成届令和 5 年度学校訪問・教育相談日程、学習支援日程について ・ 入学式について ・ 津野町交換留学生の募集について ・ 令和 5 年度辞令交付式について ・ 自転車ヘルメットの現状について

4. 予算・学校教育関係事業の状況

令和4年度の教育費は、教育総務費、学校関係経費、こども園費・社会教育費そして保健体育費を予算計上し、学校教育や社会教育等の推進、さらにはそれらを推進するための教育環境整備の充実を図っています。

(1) 教育費事業予算

単位千円

項・目及び事業費	予算額	項・目及び事業費	予算額
1 教育総務費	84,914	4 こども園費	112,683
(1)教育委員会費	2,269	(1)こども園費	112,683
教育委員会運営費	2,269	こども園運営事業	103,680
(2)事務局費	42,912	こども園維持管理事業	9,003
事務局費	1,197	5 社会教育費	52,540
学校教育等一般事業	23,170	(1) 社会教育総務費	12,154
教職員関係事業	1,227	社会教育一般事業	2,080
就学関係事業	409	社会教育一般事業推進事業	5,461
語学指導助手配置事業	4,909	芸術・文化振興事業	2,756
訓子府高等学校振興事業	12,000	青少年研修館維持管理事業	101
(3)スクールバス運行費	39,733	歴史館維持管理事業	1,756
スクールバス運行事業	39,733	(2) 公民館費	24,784
2 小学校費	126,687	公民館維持管理事業	24,784
(1)学校管理費	113,271	(3) 図書館費	15,602
学校一般管理事業	7,880	図書館活動事業	12,025
学校維持管理事業	53,999	図書館維持管理事業	3,577
学校保健・安全対策事業	1,404	6 保健体育費	137,832
臨時講師配置事業	16,589	(1) 保健体育総務費	5,054
大規模改修事業	33,399	社会体育活動推進事業	5,054
(2)教育振興費	13,416	(2) 体育施設費	70,387
教育振興事業	9,211	スポーツセンター維持管理事業	21,153
遠距離通学対策事業	46	温水プール管理事業	24,386
就学援助・奨励事業	4,159	屋内ゲートボール場管理事業	4,250
3 中学校費	45,375	屋外運動施設管理事業	20,598
(1)学校管理費	33,857	(3) 給食センター費	62,391
学校一般管理事業	5,644	給食センター運営事業	46,691
学校維持管理事業	22,407	給食センター維持管理事業	15,700
学校保健・安全対策事業	708		
臨時講師配置事業	5,098		
大規模改修事業	0		
(2)教育振興費	11,518		
教育振興事業	8,774		
就学援助・奨励事業	2,744		
		教育費総計	560,031

※ 予算額は当該年度の予算額を記載し、繰越分などは除く

(2) 学校教育関係の主な事業

1) 施設等整備事業

事業名	スクールバス購入事業
事業目的	老朽化に伴うスクールバス(北訓線)の更新
事業内容	中型バス1台(41人乗り)(25,080千円)
事業成果	児童・生徒の登下校等の安全確保等が図られた。

事業名	訓子府小学校受電設備改修工事
事業目的	老朽化している受電設備の更新
事業内容	受電設備の高圧機器及び配電線の更新(3,267千円)
事業成果	訓小の学習環境の安全と施設の延命が図られた。

事業名	訓子府小学校グラウンド鉄棒更新工事
事業目的	老朽化した鉄棒の撤去と更新
事業内容	24連鉄棒の撤去と10連鉄棒の新設(1,265千円)
事業成果	訓小の教育活動の充実と環境整備が図られた。

事業名	訓子府小学校グラウンド砂場整備工事
事業目的	老朽化した砂場の撤去と更新
事業内容	砂場のコンクリート枠撤去と砂場の新設(902千円)
事業成果	訓小の教育活動の充実と環境整備が図られた。

事業名	居武士小学校複合遊具新設工事
事業目的	大型複合遊具の新設
事業内容	ステップ丸太・ジグザグ丸太・マルチクライミング遊具の新設(2,750千円)
事業成果	居小の教育活動の充実と環境整備が図られた。

事業名	各小中学校フィルタリングソフト購入業務
事業目的	タブレット学習のためのフィルタリングソフトの購入と設定
事業内容	フィルタリングソフト購入(訓小234本・居小32本・訓中129本)(3,303千円)、設定費(訓小550千円、居小330千円、訓中550千円、計1,430千円) 合計4,733千円
事業成果	児童生徒のタブレット学習ための環境整備の充実が図られた。

事業名	学校保健特別対策事業
事業目的	新型コロナウイルス感染対策
事業内容	顔認証サーマルカメラ(訓小2台・居小1台・訓中2台)(1,408千円)、抗原検査キット(144千円) FFストーブ・背面カバー(居小1台)(256千円)、テーブル(居小3台)、天板拡張器(居小5台)(167千円) 手洗い場自動センサー設置(訓中4台)(253千円) 消耗品(訓小356千円)(居小207千円)(訓中194千円)
事業成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止、熱中症対策、及び児童生徒の学びの保障が図れた。

2) 全国学力・学習状況調査

事業目的	各学校の結果及び全国平均・全道平均から分析・考察を行い、学校改善プランを作成し、指導方法の工夫・改善を図る。
事業内容	<p>○「全国学力・学習状況調査」の結果に基づき学校改善プランを作成</p> <p>○調査日 令和4年4月19日</p> <p>○調査対象 小学校 第6学年 中学校 第3学年</p> <p>○調査教科 小学校 国語・算数・理科 中学校 国語・数学・理科 小中学校共通 学習・生活状況</p>
事業成果	調査の分析から課題に対する学校改善プランを作成して授業改善に取り組み、学力定着の改善がみられるが、令和4年度においては小中学校ともに若干全国平均を下回った。
課題	学習面では、学力向上のための児童生徒個々の実態に合わせた指導方法の改善と校内での情報の共有を図ることが必要。生活面では、家庭での学習時間の確保と継続のために家庭とのさらなる連携が必要である。
方策	学校全体での児童生徒の学力向上に向けた取り組みの共有と町雇用の臨時講師の活用による基礎学力の向上、家庭学習の手引きを活用した家庭との連携強化を図り、家庭学習の定着を図る。

※令和4年度においても、調査の結果を北海道版へ掲載した。

3) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

事業目的	子どもの体力が低下している状況をかんがみ、国及び本町の体力の状況を把握・分析し、課題の検証と改善を図る。
事業内容	<p>○調査日 令和4年4月～令和4年7月</p> <p>○調査対象 小学校 第5学年 中学校 第2学年</p> <p>○調査内容 握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・20mシャトルラン・50m走 立ち幅とび・ソフトボール投げ(中学校はハンドボール投げ)</p>
事業成果	児童生徒の体力や運動能力、生活習慣等の調査を毎年、実施することにより全体的な傾向と個々の課題、経年変化などを把握し改善に向け取り組んでいくことができる。
課題	本町の児童生徒の体力・運動能力は、小5や中2では全国平均とほぼ同水準であるが、走力や持久力、敏しょう性などに課題がみられるとともに、日常において運動をする児童生徒としない児童生徒の二極化も進んでいる。
方策	調査によって、明らかになった成果や課題を学校・家庭・地域が共有し、それぞれの立場で、課題の改善に取り組み、体力・運動能力の向上を図っていく。

※令和4年度においても、調査の結果を北海道版へ掲載した。

4) 特別支援教育事業

事業目的	特別な支援を要する児童・生徒の発達段階にあわせてきめ細かな支援を図る。																																				
事業内容	<p>○特別支援学級の設置状況</p> <table border="0"> <tr> <td>訓子府小学校</td> <td>情緒障害学級</td> <td>13名</td> <td>担任3名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>知的障害学級</td> <td>8名</td> <td>担任3名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>言語障害学級</td> <td>2名</td> <td>担任1名</td> </tr> <tr> <td>居武士小学校</td> <td>情緒障害学級</td> <td>4名</td> <td>担任1名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>知的障害学級</td> <td>2名</td> <td>担任1名</td> </tr> <tr> <td>訓子府中学校</td> <td>情緒障害学級</td> <td>5名</td> <td>担任1名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>知的障害学級</td> <td>1名</td> <td>担任1名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>肢体障害学級</td> <td>0名</td> <td>担任1名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>言語障害学級</td> <td>1名</td> <td>担任1名</td> </tr> </table>	訓子府小学校	情緒障害学級	13名	担任3名		知的障害学級	8名	担任3名		言語障害学級	2名	担任1名	居武士小学校	情緒障害学級	4名	担任1名		知的障害学級	2名	担任1名	訓子府中学校	情緒障害学級	5名	担任1名		知的障害学級	1名	担任1名		肢体障害学級	0名	担任1名		言語障害学級	1名	担任1名
	訓子府小学校	情緒障害学級	13名	担任3名																																	
		知的障害学級	8名	担任3名																																	
	言語障害学級	2名	担任1名																																		
居武士小学校	情緒障害学級	4名	担任1名																																		
	知的障害学級	2名	担任1名																																		
訓子府中学校	情緒障害学級	5名	担任1名																																		
	知的障害学級	1名	担任1名																																		
	肢体障害学級	0名	担任1名																																		
	言語障害学級	1名	担任1名																																		
<p>○特別支援教育支援員の配置(訓小4名、訓中1名)</p> <p>○普通学級との交流授業の実施</p> <p>○訓子府町教育支援委員会の開催(就学予定児童14名、訓小66名、居小6+B100名、訓中20名)</p> <p>○特別支援教育就学奨励費の支給(訓小11名、居小6名、訓中0名)</p>																																					
<p>○通級学級の設置状況</p> <table border="0"> <tr> <td>訓子府小学校</td> <td>言語障害</td> <td>9名</td> <td rowspan="5">} 小学校 通級指導教諭 3名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>自閉症</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情緒障害</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>LD</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ADHD</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>居武士小学校</td> <td>対象者</td> <td>0名</td> <td rowspan="3">} 中学校 通級指導教諭 1名</td> </tr> <tr> <td>訓子府中学校</td> <td>情緒障害</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>LD</td> <td>2名</td> </tr> </table>	訓子府小学校	言語障害	9名	} 小学校 通級指導教諭 3名		自閉症	1名		情緒障害	11名		LD	14名		ADHD	7名	居武士小学校	対象者	0名	} 中学校 通級指導教諭 1名	訓子府中学校	情緒障害	5名		LD	2名											
訓子府小学校	言語障害	9名	} 小学校 通級指導教諭 3名																																		
	自閉症	1名																																			
	情緒障害	11名																																			
	LD	14名																																			
	ADHD	7名																																			
居武士小学校	対象者	0名	} 中学校 通級指導教諭 1名																																		
訓子府中学校	情緒障害	5名																																			
	LD	2名																																			
事業成果	町雇用の支援員を配置し、特別な支援を必要とする児童生徒一人一人に対し、きめ細かな支援と教育支援委員会や育ちの手帳をとおし、町全体での支援の継続を図ることができる。また、特別支援学校に在籍する児童生徒への帰省費の助成を行い、保護者の負担軽減を図っている。令和4年4月から中学校での通級指導を開始。																																				
課題	特別な支援を必要とする児童生徒の増加と多様化が進む中、個々の教育ニーズに対応するため、担当する教員の専門性の向上とともに、家庭や地域の理解と連携を図っていく必要がある。																																				
方策	特別支援教育の充実を図るため、教職員の専門性を高めるための研修会等への参加促進と「育ちの手帳」を活用し、こども園から高校までの学校間や家庭との情報共有・連携の強化を図っていく。また、中学校における通級学級開設を検討する。																																				

5) 教育相談業務

事業目的	子どもの健やかな成長を実現するために、教育相談業務を実施し、子どもの健康、進路、学校、生活上の悩み等の相談にあたることを目的としている。
事業内容	<p>○期間 通年 ○件数 15件</p> <p>○対象 各小中学校・こども園の児童生徒、保護者、学校関係者等</p> <p>○内容 1)児童生徒、保護者からの教育相談 2)学校訪問による管理職、一般教諭等の教育相談</p>
事業成果	児童生徒、保護者からの相談に加え、町内各学校を訪問することにより、よりきめ細やかな相談業務を行うことができている。また、「訓子府町子育て支援情報」に相談業務と相談員(教育専門員)の紹介を掲載し、幅広い年代の教育相談に対応できるようにしている。
課題	相談事業の推進を図るため、事業の趣旨や目的、相談員の紹介、最新の教育情報等の提供を行うなど、よりきめ細やかな取り組みが必要である。
方策	生涯学習情報紙「まなベル」に相談員による発信型の教育情報を掲載し、チラシやポスターを活用した事業や相談方法の周知を行う。また、教育専門員による各学校への定期的な訪問を継続実施し、関係機関や関係部署、スクールカウンセラー等と連携を図りながら、様々な事案に対応する。

6) 児童・生徒及び教職員の健康診断

学校保健安全法に基づき、児童・生徒及び教職員の健康保持増進を図り、学校教育が円滑に運営されるよう健康診断を実施しました。

(児童・生徒の実施状況)

検査項目	小学校		中学校	
	検査対象	検査人数	検査対象	検査人数
尿 検 査	全学年	246/246	全学年	103/102
内 科 検 診	全学年	243/246	全学年	99/102
歯 科 検 診	全学年	243/246	全学年	89/102
心 臓 病 検 診	1学年及び希望者	85	1学年及び希望者	42
耳 鼻 科 健 診	1学年	29/32	-	-
結 核 健 診	※	0	※	0

※問診票の提出(全員)により教育委員会と学校が協議し、医師の診断が必要と認められた児童・生徒に対し実施。

現 状 ・ 成 果	子どもたちの健康状態の把握と疾病等への早期発見などに効果を上げている。
課 題 ・ 方 策	各学校と連携し、子どもたちへの健康増進を図るため、家庭や関係機関と連携し、より良い生活習慣、食習慣につなげていく。

(教職員の実施状況)

年齢区分等	受診者数		検 査 項 目
	小学校	中学校	
40歳以上	26	10	胃部検査、腹囲計測、聴力検査、心電図検査、血液検査、結核検診、尿検査、視力検査、血圧測定、ストレスチェック
36～39歳	2	0	血液検査、結核検診、尿検査、視力検査、血圧測定、ストレスチェック、
35歳	0	1	聴力検査、心電図検査、血液検査、結核検診、尿検査、視力検査、血圧測定、ストレスチェック
25～34歳	3	3	血液検査、結核検診、尿検査、視力検査、血圧測定、ストレスチェック、
24歳以下	2	2	結核検診、尿検査、視力検査、血圧測定、ストレスチェック
ドック等	10	4	人間ドック、脳ドック等
合 計	43	20	

現 状 ・ 成 果	教職員の健康管理と疾病等の早期発見のために効果を上げている。また、ストレスチェックも実施。
課 題 ・ 方 策	検査結果に基づく事後対応などへの、教職員個々の健康管理への意識を高めていく取り組みが必要

(就学時健康診断) 知能検査・内科検診・視力聴力 36/36

7) 就学援助

経済的な理由によって就学困難な児童生徒や特別支援学級の児童生徒の保護者に対して、負担の軽減を図るために必要な援助を行いました。

(要保護・準要保護児童生徒援助費)

区 分	援助品名	小学校		中学校	
学用品費	文房具等	29 人	435,248 円	17 人	432,455 円
体育用品	スキー用具等	7 人	185,500 円	9 人	46,800 円
修学旅行等	旅行経費	6 人	139,986 円	4 人	230,152 円
宿泊研修費	交通費	0 人	0 円	4 人	1,400 円
新入学用品費	ランドセル等	9 人	384,420 円	7 人	420,000 円
給食費	給食代	29 人	1,352,511 円	16 人	876,970 円
医療費	う歯等特定疾患	0 人	0 円	0 人	0 円
P T A 会費	PTA会費	22 世帯	65,000 円	14 世帯	21,000 円
クラブ活動費	保護者負担分	0 人	0 円	5 人	36,000 円
大会等派遣費	全道・全国大会	0 人	0 円	1 人	4,284 円
卒業アルバム代		6 人	67,200 円	4 人	56,000 円
生徒会費		0 人	0 円	16 人	1,600 円
オンライン学習通信費		29 人	400,167 円	17 人	232,167 円
計			3,030,032 円		2,358,828 円

(特別支援教育就学奨励費)

区 分	援助品名	小学校		中学校	
学用品費	文房具等	17 人	128,345 円	0 人	0 円
体育用品	スキー用具等	5 人	51,560 円	0 人	0 円
修学旅行等	旅行経費	2 人	23,332 円	0 人	0 円
新入学用品費	ランドセル等	3 人	81,090 円	0 人	0 円
給食費	給食代	17 人	416,278 円	0 人	0 円
オンライン学習通信費		17 人	119,000 円	0 人	0 円
計			819,605 円		0 円

現 状 ・ 成 果	就学援助として、必要とする時期に支給することを基本としている。 令和4年度よりオンライン学習通信費を追加した。
課 題 ・ 方 策	就学援助を必要とする児童生徒の保護者等の漏れがないよう、学校や関係機関と連携し対応していくとともに、制度に関し広く周知を図っていくことが必要。

8) 奨学資金貸付状況

教育の機会均等と教育の振興を図るために奨学金を貸付しており、昭和36年から令和4年度までの61年間で219名の方に貸付をしております。令和4年度の状況は次のとおりです。

(単位:円)

令和3年度までの貸付金①	令和4年度貸付金②	令和4年度回収金③	令和4年度期末貸付金合計①+②-③
35,682,000	6,840,000	4,159,500	38,362,500

新規貸付

年度	新規貸付人数(人)			新規貸付額(円)
	高校	専門学校・短大	大学	
	15,000円/月	30,000円/月	30,000円/月	
令和元年度	1	1	0	540,000
令和2年度	1	2	4	2,340,000
令和3年度	0	1	6	2,370,000
令和4年度	3	0	6	2,700,000

現 状 ・ 成 果	令和4年度は、大学・高等学校への進学者9名の奨学生を決定し、合わせて21名に奨学金の貸付を行い、教育の機会・機会均等が図られるよう努めた。
課 題 ・ 方 策	これまで、申請者の増加や償還期間の延長を図ったことにより、資金原資に不足となることから、令和4年度に基金の積み増しを実施。子どもたちの就学の機会・均等が保たれるよう他の制度の実態も把握しながら、制度の充実について検討を進める。

9) 中学卒業者の進路状況

進 路 先	人数
訓子府高等学校	3
北見北斗高等学校	4
北見柏陽高等学校	9
北見緑陵高等学校	3
北見商業高等学校	6
北見工業高等学校	5
北見藤高等学校	1
北海高等学校	1
武修館高等学校	1
合 計	33

5. 給食センターの運営状況

(1) 学校給食センターの職員

教育長 — 所長(管理課長) — 次長兼総務係長 — 栄養教諭(道職員)
 事務補助員(会計年度任用職員)
 調理員(会計年度任用職員)6名
 代替調理員(会計年度任用職員)4名

(2) 学校給食センター運営委員の構成

1号委員	小学校	訓子府小学校長 居武士小学校長
	中学校	訓子府中学校長
2号委員	学校PTA代表	訓子府小学校 PTA代表 居武士小学校 PTA代表 訓子府中学校 PTA代表
		訓子府クリニック院長
		訓子府小学校母親代表 居武士小学校母親代表 訓子府中学校母親代表

※運営委員の任期：令和4年6月1日～令和6年5月31日

(3) 運営委員会の開催状況

令和5年2月27日(月)午前10時 役場会議室1

出席者 委員8名 事務局3名 合計11名

(報告)

- 1)給食センターへの食材寄贈について
- 2)令和4年度給食センターの運営状況について
- 3)令和5年度給食センターの運営について

(議案)

- 1)役員の互選について
- 2)令和5年度学校給食費の諮問について

(4) 1食あたりの学校給食費

区分	学年	令和4年度	備考
小学校	1・2年生	250円	
	3・4年生	260円	
	5・6年生	265円	
中学校	1～3年生	290円	
高校		250円	訓子府高校の希望者のみに提供

令和4年度については、物価高騰により給食材料費の大幅な値上げがあったが、子育て世帯に対する経済的な負担軽減のために給食費を値上げすることなく、給食材料費の増額分は町費で負担しました(52万円)。

(5) 一週間の給食供給内容

曜日	月	火	水	木	金(交互)
内容	米飯	米飯	めん類	米飯	パン・米飯
	副食	副食	副食	副食	副食
	牛乳	牛乳	牛乳	牛乳	牛乳

※ 高校については、牛乳を除く

(6) 米飯給食の内容

使用量	小学校	低学年	70g
		中学年	80g
		高学年	100g
	中学校	全学年	110g
	高校	全学年	110g
実施回数	週3.5回		
使用米	訓子府産(米太郎)		

(7) パン給食の内容

使用量	小学校	全学年	60g
	中学校	全学年	90g
	高校	全学年	90g
実施回数	週0.5回		
使用小麦	道産小麦100%		

(8) 主要事業

- ◇施設設備(1,782,000円)
受変電設備更新(動力用変圧器、A種接地)
- ◇修繕(1,146,453円)
厨房機器、給食センター設備の修繕～随時
- ◇備品購入(2,428,800円)
厨房用備品 スライサー1台

(9) 給食センターへの食材寄贈について

令和4年6月14日	訓子府町酪農振興会 牛乳プリン654個(一部を定こども園に分配)
令和4年9月26日	訓高生、訓中生が銀河農園で栽培した玉ねぎ80kg、 馬鈴しょ120kg
令和4年9月30日	中西里志氏(東幸町) 人参90kg
令和4年10月13日	ホクレン農業協同組合連合会 ぜんざい440個
令和4年10月28日	みその会 手作りみそ20kg
令和5年1月19日	JA豆類振興会訓子府地区 大豆30kg、あずき5kg
令和5年2月3日	JAきたみらい 玉葱300kg 馬鈴しょ150kg (玉ねぎ及び馬鈴しょの一部を認定こども園に分配)

※JAきたみらい、ホクレン様から食育パンフレット等のご提供を受け児童生徒に配付しました。

(10) 食育推進事業(こどもクッキング)

例年同様3月に予定をしていたが、新型コロナウイルス対策のため中止とした。

6. 社会教育各種委員の活動状況

(1) 社会教育委員

社会教育に関し教育長を経て教育委員会に助言するため、社会教育に関する諸計画の立案、教育委員会の諮問に応じ意見を述べることなどを行うため12人(男7人、女5人)の社会教育委員を委嘱している。町民の意見を社会教育行政に生かすことを目的にしている。

期日 (出席数)	内容
令和4年5月20日 (12人)	第1回社会教育委員会議 ・議長・副議長の選出について ・令和3年度社会教育・社会体育・図書館事業実績について ・令和3年度社会教育施設の利用状況について ・令和3年度教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告について ・令和4年度社会教育・社会体育・図書館事業等について ・令和4年度社会教育関係団体活動費補助金について
令和4年7月20日 (8人)	第2回社会教育委員会議 兼 第1回図書館協議会 ・第2期社会教育中期計画評価について ・読書活動推進計画の進捗状況について
令和4年10月23日 (9人)	第3回社会教育委員会議 ・各種研修会の報告について ・令和5年度予算編成について ・第2期社会教育中期計画評価について ・アート・タウン・プロジェクトについて
令和5年2月17日 (7人)	第4回社会教育委員会議 兼 第1回公民館運営審議会 ・対話型作品鑑賞会の実施(研修) ・公民館40周年記念事業について

(2) スポーツ推進委員

スポーツの推進に係る体制の整備を図るために11人(男9人、女2人)のスポーツ推進委員を委嘱している。町民にスポーツの楽しさを伝え、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境をつくるために、地域でのスポーツの推進に努めることや教育委員会が企画したスポーツ事業に協力している。

なお、令和4年度については、オホーツク管内社会体育振興セミナーの当番町として、スポーツ推進委員が中心となり、運営を実施した。

期日 (出席数)	内容
令和4年5月16日 (6名)	第1回スポーツ推進委員会議 ・令和4年度の社会体育事業計画について ・オホーツク管内社会体育振興セミナーの運営について ・春のロードレース大会について ・温水プールKAPPAの利用増に向けた取り組みについて 他
令和4年5月21日 (6名)	春のロードレース大会 運営協力
令和4年9月3日 (6名)	秋のロードレース大会 運営協力
令和4年10月29日 (6名)	第1回スポーツ推進委員会議 ・オホーツク管内社会体育振興セミナーの運営について(4名) ・上記事業に係る前日会場設営・リハーサル(6名)
令和4年10月30日 (3名)	オホーツク管内社会体育振興セミナー 運営協力
令和4年12月8日 (5名)	第3回スポーツ推進委員会議(オホーツク玉入れ協会と合同で開催) ・オホーツク玉入れ選手権大会について ・部活動の地域移行について
令和5年2月12日 (5人)	オホーツク玉入れ選手権大会 運営協力 (※前日準備・リハーサル8名参加)

7. 社会教育の活動状況

(1) 青少年教育推進事業

事業名	子どもまつり				
事業目的	幼児・小学生が「こどもの日」を楽しく過ごすことを目的としている。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	3/21	公民館講堂	幼児、こども園児、小学生一般(父母等)	劇団風の子北海道公演「めっきらもつきらどおんどん」	74名
現状及び成果	毎年、「こどもの日」にちなんで4/29に実施しているが、町内の新型コロナウイルス感染症拡大のため、時期をずらして実施した。人気絵本が原作であったため、親子での来場が多く、みなさんに楽しんでいただけた。				
課 題	子ども会との共催事業であるが、なかなか子ども会育成者が関わっていない。				
方 策	大人と子どもの交流の場として、子ども会を通じて育成者の参加を呼びかけていく。				

事業名	通学合宿(ジュニアリーダー研修)				
事業目的	子どもたちの健やかな成長を願い、学校・地域・家庭が一体となって集団での体験学習を支援し、子どもたちの社会性、自主性、協調性を伸ばし「生きる力」を育む。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	3/25～26	町公民館	小学4～中学2年生	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2・3年度は行っていなかった。久しぶりの実施となるため、1泊2日の土日で実施し、内容は「ジュニアリーダー研修」のみとした。	5名
現状及び成果	平成26年度からジュニアリーダーを養成する事業として町子ども会育連協と共催で行っている。中学生がリーダーとなりグループ活動で自立性を高めたり、夕食やもらい湯などで地域の方たちと交流を深めることができる事業であった。令和4年度は3年ぶりの実施であったこともあり、4年生のみの参加となったが、「ジュニアリーダー」として翌日行われる「竹の子クラブ」の準備・運営などをおこなった。				
課 題	通学合宿は、ジュニアリーダー養成・地域の方たちとの交流を大きな柱として実施していたが、新型コロナウイルスのまん延により2年間中止になってしまったことにより、地域の方たちの協力体制も2年間で大きく変わってしまった。今後の実施に向けて、新たな協力体制を築いていく必要がある。				
方 策	通学合宿は子ども会との連携事業であるため、子ども会にも広く呼びかけ、地域との交流機会を確保していく。				

事業名	放課後子ども教室「竹の子クラブ」				
事業目的	学校完全週5日制の実施や少子化などの現状の中、さまざまな体験活動を通じて、子どもたちの創造性や自主性、社会性を育むことを目的としている。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	5/14	レクリエーション公園	参加児童	ツリークライミング 講師:服部和憲氏	5名
	6/25	スポーツセンター敷地	参加児童	薪割り&火おこし体験 講師:可知篤見氏	16名
	7/28	公民館	参加児童	オンラインJAL折り紙ヒコーキ教室 講師:JAL	15名
	8/6	清住会館前	参加児童	バス停アート 協力:訓子府高校美術部	9名
	9/10	くねっふ歴史館	参加児童	くねっふ歴史館であそぼう!	11名
	9/30	レクリエーション公園	参加児童	レクリエーション公園でお宝スポット探し! 講師:ネイパル北見	13名
	10/13	公民館	参加児童	ハロウィンまつり 講師:町ALT、協力:訓青協・他町ALT	19名
	11/23	公民館	参加児童	レクチャレンジ	8名
	12/26	北見工業大学	参加児童	北見工業大学で実験しよう! 講師:北見工業大学	6名
	2/18	公民館	参加児童	パソコンで囲碁体験 講師:白崎隆徳氏、城地恵市氏	4名
	3/26	公民館	参加児童	イースターまつり 講師:町ALT 協力:ジュニアリーダー研修参加者	17名
現状及び成果	スポセン・図書館の少年教育事業とも連携を取りながら、月1回程度子どもたちがさまざまな分野の体験ができるよう配慮し実施している。				
課 題	さまざまな分野の体験活動が求められている。				
方 策	社会教育・文化芸術・スポーツ・図書館が連携し、地域の方たちとの交流を意識しながらさまざまな分野の体験事業を実施していく。				

事業名	放課後子ども教室「みつばちクラブ」				
事業目的	少子化・核家族化の中、子どもたちの放課後や週末をより豊かに過ごすことを目的としている。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	4月～3月 平日 13:30～18:30 学校休業期間 8:00～18:00	日ノ出地区 ふれあい センター	居小児童	遊び、宿題、調理実習など、小学生のさまざまな体験活動を実施。 (233日)	延1,318名
現状及び成果	「みつばちクラブ保護者会」に運営を委託している。消耗品や遊び道具等については社会教育課で購入。 また、竹の子クラブの平日開催時には送迎を行うことで、参加を呼びかけた。				
課 題	低学年が多いため、指導員2名以上の体制が必要である。また、普段の学習や遊びだけでなく、長期休暇を利用した活動や体験学習等を実施することに力をいれる必要がある。				
方 策	新型コロナウイルス感染が落ち着いてきたため、児童センターとの交流や、地域の方たちとの交流を再開していく。				

事業名	集まれ！ 公民館Kid's(3館連携事業)				
事業目的	子どもたちの放課後の居場所の確保と、公民館をはじめとする社会教育施設に親しみを持ってもらうために各館月1回休館日である月曜日に施設を開放している。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	4/18	町公民館	参加児童	紙コップアート	5名
	5/16	町公民館	参加児童	カラオケ体験、紙コップアート、お絵描き	7名
	6/20	町公民館	参加児童	ボードゲーム	7名
	8/22	町公民館	参加児童	紙ヒコーキづくり	4名
	10/17	町公民館	参加児童	折り紙とモールでカサづくり	10名
	11/21	町公民館	参加児童	カラオケ体験、紙コップアート	10名
	12/19	町公民館	参加児童	まつぼっくりdeクリスマスツリーづくり	20名
	1/16	町公民館	参加児童	将棋、オセロ	1名
	2/20	町公民館	参加児童	プリントゴッコ	13名
	3/17	町公民館	参加児童	パーラービーズ	20名
現状及び成果	公民館を児童に開放し、担当者による体験活動と、自由に遊びながら過ごせるようにしている。「何かをつくる」活動が特に人気が高い傾向にある。				
課 題	児童期から子どもたちに公民館に慣れ親しんでもらうために継続的な実施が必要と考える。				
方 策	今後も公民館・スポーツセンター・図書館が連携し、児童期から社会教育施設に親しめる事業を展開していく。				

事業名	校外生活指導				
事業目的	イベント行事等の夜間の児童・生徒等の校外生活について、関係する機関・団体などとの連携のもと、合同の町内巡視指導を実施し、青少年の健全育成を推進する。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	7/9,9/18	市街地区	小中高校生	夏・冬休み前にリーフレットを全戸配付。町内イベント巡視指導はふるさとまつり、秋まつりに合わせて実施。「こども110番の家」304戸、「子ども110番の車」41台、「子ども安全パトロール隊」118名	14名
現状及び成果	巡視指導は、夏休み期間中だけではなく町内各イベントに合わせて実施し、学校、地域、団体代表者により青少年の非行防止、健全育成を目的として巡回を行った。また、学校で生活指導等を担当している先生や駐在所所長が集まり、年2回の青少年育成会議を開催し、子どもたちの生活の様子等について話し合い、情報共有が図られている。				
課 題	青少年の健全な育成を図るとともに日常的な安心・安全を地域で支え、見守る必要がある。まなべル・広報などで「子ども110番の家」等の取り組みを紹介し、理解と協力を求めている。コミュニティスクールで開始した「ながら見守り」等とも連携し、さらに事業と取り組みについて広く啓発していく必要がある。				
方 策	各種の社会教育事業を実施する際に合わせ、PRや「こども110番の家」のステッカーに使用されている図版を参加者に配付する資料に表示する等、細かな啓発も行いながら、コミュニティスクールとも連携を図っていく。				

事業名	二十歳の式典・交流会				
事業目的	大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い、励ますことを目的とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	1/8	公民館講堂	平成14年4月2日～平成15年4月1日生まれ	(1)式典(二十歳40名、来賓・保護者等38名)	78
		公民館多目的ホール		(2)交流会	40
現状及び成果	式典…新型コロナウイルス感染症拡大予防対策のもと実施し、対象者同士の交流を図り、成人としてのマナーを養うことを目的として実施した。 交流会…新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しつつ、お菓子セットを各席にセッティングし、交流の場として開催した。なごやかな交流の場となった。 しおり…新成人からのメッセージを募集して、しおりに記載した。				
課 題	出席率も高く、対象者からのメッセージも呼びかけに充実した内容となった。今後はより参加者同士が交流できるような内容として実施していきたい。 成人年齢が18歳になったことから、名称を改めた。「式典らしい名称が良い」という対象者の意見を取り入れ「二十歳の式典」として実施した。				
方 策	対象者の意見を取り入れながらより成人としての自覚を持ち、久しぶりの交流を楽しめる内容としていきたい。				

事業名	大会派遣				
事業目的	訓子府町における社会教育の振興のため、各種団体または個人が、全道及び全国大会に出場する場合に要する経費の一部を補助する。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	—	—	—	—	申請者なし
現状及び成果	管内予選を通じて全道大会、全道予選を通じて全国大会に参加する者に対して補助を行っている。また、個人の派遣についても申請があり、全道・全国大会への出場に要する経費の補助を行っている。				
課題	現在は、学生の利用がほとんどであるが、一般町民に向けても補助制度利用についての周知(要項内容の説明)が引き続き必要である。				
方 策	生涯学習情報紙「まなベル」等で補助制度の利用方法や派遣実績を報告するなど、社会教育振興のため広く周知を行いながら、今後も継続して大会等に派遣していく。				

事業名	派遣研修				
事業目的	社会教育の振興のため、各種団体の代表、または個人を指導者養成としてを各種研修会、大会等に派遣している。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	1/25-27	北海道自治労会館	4Hクラブ 会長	北海道青年農業者会議	1名
現状及び成果	近年は、各種団体等活動のリーダー、特に中高生や青年を各種研修会・大会等に派遣して養成を図っている。令和4年度については、4Hクラブがプロジェクト発表で全道大会出場となり、リーダー研修として1名を派遣した。				
課題	ジュニアリーダーコースについては、毎年、訓子府中学校と訓子府高校の生徒を交互に派遣しているが、参加(申し込む)する生徒が減少しているため、参加者への周知と参加を促進するためのPR等が必要である。				
方 策	ジュニアリーダーコースについては、青少年の体験・活動の促進のため、各学校とも連携し参加の促進を図る。また、青年のリーダー養成についても、引き続き各種研修会・大会等に積極的に派遣していく。				

事業名	産業後継者研修				
事業目的	訓子府町の青年が、産業(農業・林業・商業等)やまちづくりの先進地を訪問し、先進地からさまざまなことを学ぶとともに、研修先の人々との交流を通じて多面的で総合的な学習を深め、研修全般を通じて視野を広めるとともに、自分の町の産業やまちづくりを見つめ発展させていく地域リーダー養成に寄与することを目的とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	6/13-16	島根県・広島県	町内の産業 後継者(青年)	青年の道外研修を置戸町と合同で実施。 事前研修5回、事後研修4回	4名
現状及び成果	置戸町と連携し、青年の道外研修を実施している。令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大により事業を中止となったため、令和4年度で実施。				
課題	夏から募集し、事前研修を重ねて、本研修が冬になってしまうため、行き先や研修内容が限られてしまう。				
方 策	参加者が主体的に研修に参加できるよう、募集時期や事前研修の在り方などについて置戸町担当者よりよい実施に向けて話し合っていく。				

(2) 成人教育推進事業

事業名	はぐくみ講座				
事業目的	子育てをしている親を対象に講演、講義あるいは相談を行い、子育て支援、幼児教育の充実を図ることを目的としている。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	6/17	町公民館	一般町民	講演「子どもたちがもっと輝けるために～活動・学習を集中して行うための環境とは～」 講師：富家直明氏(北海道医療大学)	30名
現状及び成果	令和3年度の実施が中止となり、同内容で令和4年度で実施した。コロナ禍で自宅で過ごす時間が増え、子どもたちの活動に対する保護者の方たちからの不安も寄せられていたため、参加者の方たちからも非常に好評であった。				
課 題	より多くの方に安心して参加してもらえるように、実施時期・時間、事業PR等を含めた周知方法を工夫する必要がある。 子育て期には乳幼児と小学生以上で異なる悩みや課題があるため、それぞれのニーズに合わせた講座を実施する必要がある。				
方 策	町内各学校、子育て支援センター、こども園、児童センターと連携を図り、それぞれの子育て期に関する問題や課題解決に向け、柔軟な学習形式を採用しながらニーズに合わせた講座を実施する。				

事業名	くんねっぷの未来づくり大会				
事業目的	町民共通の地域や生活の課題について、解決に向けての方策を考えるなど、地域の力を高めることを目的とする。また、未来に向けたまちづくりについて学習する場とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	12/16	公民館講堂	一般町民	テーマ：出会い・学びの場としての公民館 (1)講演会 講師 廣瀬隆人氏 (2)グループトーク (3)グループ発表	34名
現状及び成果	公民館開館40周年記念事業「出会い・学びの場として40年」基調講演として位置づけて実施した。「公民館」のように、集い、学習や活動ができる場の大切さについて日ごろから公民館を利用している方たちと一緒に振り替えることができた。				
課 題	町民が一堂に会し、講演会やグループワークでの話し合いを行うことで町民共通の認識を得られることはできるが、年一回の実施では継続的な学習への展開が難しいため、他の事業等との関連性を持たせるなどして継続的な学習や活動へと結びつける仕掛けが必要である。				
方 策	今後も関係課や団体等と連携を図りながら、地域や生活に関する様々な課題をテーマに取り上げ、町民とともに考え話し合う機会を提供していく。公民館外でも多くの活動をしている方たちがいるので、その活動も紹介しながら、全町的なつながりを作っていくような取組にしていく。				

事業名	公民館講座				
事業目的	地域課題や生活課題の解決学習や文化活動そして趣味活動へとつなげていくことを目的とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	10/14・17・28・ 11/11・21・ 12/9・1/11	町スポーツセンター	一般町民	40代からのカラダメンテナンス	29名
	11/2	町公民館 多目的ホール	一般町民	女性のための「健康づくり栄養」講座	12名
	11/9	町公民館 農事研修室・調理実習室	青年	青年講座「健康ご飯を作ってみよう！」	10名
	12/22	町公民館 多目的ホール	一般町民	スマホ講座	13名
	2/2	町公民館 多目的ホール	一般町民	整えて分かる！こころとおへやの片づけ効果	13名
	1/23・27・30	町公民館 多目的ホール	一般町民	温活講座	26名
	3/12	町公民館講堂・ 多目的ホール	一般町民	フラワーランタンキャンドル講座	14名
	3/23・30	町公民館 ロビー	一般町民	スマホカフェ	15名
現状及び成果	町民や地域が抱える課題や生活課題の学習、文化活動や趣味活動につながっていく講座などを実施しているが、いち早く話題となっているテーマやジャンルについて取り扱うことにより、固定化と高齢化が懸念されている団体やサークル活動の活性化を促すきっかけにもなっている。令和4年度には青年層に向けた講座をスタートさせた。				
課 題	町民のニーズや地域及び生活課題を把握しながら、趣味・教養に関するテーマとした講座の開講に加え、単発で終わらずに継続した学習活動のきっかけとなるような取り組みを推進する必要がある。また、講座からサークルにつなげていくことと、男性や若年層の参加が見込まれるのプログラムの考案が必要である。				
方 策	今後も引き続き地域課題や生活課題、文化活動や趣味活動のニーズをアンケートや、各種事業実施の中で聞き取りを行い、現状や実態を把握しながら実施する。また、生涯学習情報紙「まなベル」や町ホームページ、SNS等を利用した講座等のPRを積極的に行っていく。				

事業名	くねっふ巡回講座				
事業目的	地域単位で地域課題や生活課題の解決学習や趣味活動などへつなげていく。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	4/22	豊坂公民館	豊坂老人クラブ	アーカイブ上映	12名
	5/27	町公民館	訓青協	陶芸体験 講師:井幡美智子氏、美馬律子氏	9名
	6/16	町公民館	東町町内会	ヒザ・腰のストレッチ 講師:部田夏子氏	38名
	6/20	町公民館	星の会	コーヒーの淹れ方講座 講師:幾島広樹氏	7名
	6/22	町公民館	柏丘女性部	草木染め 講師:加藤美枝子氏	6名
	6/30	青少年研修館	訓青協・4Hクラブ	青年期の健康について 講師:福祉保健課健康増進係	11名
	7/8	東町会館	東友会	アーカイブ上映	10名
	8/3	西地域集会所	若富町ふれあい交流会	介護保険制度について 講師:福祉保健課介護保険係	11名
	8/5	町公民館	友遊クラブ	頭の体操を取り入れた軽運動 講師:鷺美幸氏	10名
	10/31	農業交流センター	元町げんき教室	ストレッチ 講師:森実啓子氏	6名
	12/5	町スポーツセンター	西地域女性部	ストレッチ 講師:部田夏子氏	17名
	12/7	町公民館	訓子府音頭令和版実行委員会	訓子府音頭令和版踊り体験 講師:真島芽衣氏	28名
	12/9	町公民館	西富女性部	陶芸体験 講師:井幡美智子氏、美馬律子氏	10名
	2/22	町公民館	遺族会	アーカイブ上映	7名
	3/6	町公民館	柏丘女子会	太極拳体験 講師:高橋洋子氏、豊田富司氏	7名
	3/19	日出地区ふれあいセンター	JAきたみらい東地区女性部	水引きアクセサリー作り 講師:市田尚美氏	10名
	現状及び成果	全ての講座で、必ず導入・ふりかえりを行い、保健師から健康増進計画をもとに健康について触れ、社会教育課からもお知らせなどを継続して行っている。新たな利用団体が増えてきている。少人数での学習・活動のきっかけづくりや、継続支援として利用されている。			
課 題	利用は伸びてきているが、継続的な活動・学習につながるケースが少なく、継続的な活動・学習につなげるための支援が必要である。				
方 策	事業の展開方法やPRに関する研究協議を関係課と連携して行う。また、各団体への案内送付や町老人クラブ連合会の会議等で周知・説明をするなど、学習者のニーズ把握を含めた取り組みを積極的に行い、継続的な活動・学習のための支援を丁寧に行っていく。				

事業名	まちづくりパワーアップ特別対策事業「わくわく地域づくり活動支援事業」				
事業目的	町民税の1%を活用し、町民で構成する団体が自主的に取り組む研修やイベントなどの地域づくりを支援する。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容（補助金額）	参加人数
	6/19	かくれ沢のとまり木	一般町民	自然の中でオカリナを！田村まさかショー(100,000円)	102名
	7/16	町公民館	一般町民	映画「ひまわり」鑑賞会(99,682円)	92名
	8/4～8/7	町公民館	一般町民	小笠原み蔵の世界inくねっふ(99,870円)	234名
	3/11	町公民館	一般町民	江藤良人トリオライブin訓子府・子どもたちのためのJAZZミニライブ(0円)	247名
現状及び成果	制度を利用した主催団体・グループからは、使いやすい制度ということで好評を得ており、町民の自主企画やグループ活動の促進ということでは大きな成果がある。事業の実施にあたっては、社会教育課職員が様々な支援を行っている。令和4年度は申請数もコロナ前のように戻ってきている。				
課 題	今後も町民への学習機会提供やグループ活動の促進のための支援が必要である。また、より利用しやすさに配慮するという観点から、制度の仕組みと事業趣旨説明の時期や方法についても検討する必要がある。				
方 策	今後も事業成果報告や制度活用について積極的なPRを行い、自主的に取り組む研修やイベントなどの地域づくりを支援する。令和5年度以降の事業継続に向けて協議を進めていく。				

(3) 高齢者教育推進事業

事業名	若がえり学級				
事業目的	町内に住む60歳以上の高齢者を対象に学級での学習・スポーツ・文化活動を通し自己を高め、仲間との交流を深める中から自分の役割を再発見し、積極的な社会参加を生み出す手がかりとすることを目的とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	4月～3月 月2回 (第2・4火)	公民館各室	60歳以上の町民	講演・実技・移動研修・クラブ活動 (8クラブ)会員81名	延1,124名
現状及び成果	各クラブで活発に活動するなど、生きがいづくりの場となっている。また、学級生の移動手段の確保について、スクールバスのほか2km以内(市街地区など)については、公用車で送迎をしているため、学級生からも喜ばれている。 ここ数年、学級生が高齢化しているが、集合学習のテーマなどは積極的に意見が出ている状況。学級生の意見をいかした学級運営に取り組んでいる。				
課 題	ここ数年、参加者の高齢化が進む中、参加者が減少傾向にあり、特に男性の参加や60代の参加が少ない。学級生からも「男性が参加しやすいクラブの創設」などについて話題に上がっている。				
方 策	令和4年度の50周年記念では「自治会があることの大切さ」を意識して実施してきた。男性の参加については、今後も学級生とさまざまな取組を行う中で考えていきたい。				

事業名	シニア健康教室「しゃきっと倶楽部」				
事業目的	高齢者が「寝たきり」や「閉じこもり」などにならないため、さらに介護予防を図るために、高齢者に適した運動と学習、さらに仲間づくりを行うことにより、体と心の健康維持を目的とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	5月～3月 月1回 (第2火)	町公民館講堂	65歳以上の町民	介護予防体操 指導:健康運動指導士 前崎さやこ氏 会員68名	延370名
現状及び成果	高齢者が筋力維持をするための事業となっている。参加者がとても楽しみに参加している事業であり、教室の前後、休憩時間は参加者同士で交流する姿が見られている。				
課 題	高齢者を対象とした介護予防を目的とした運動と学習、また参加者同士の交流を通じての身体と心の健康維持を図るため継続した開設が必要である。体力低下を心配する高齢者の運動の場として定着している。「介護予防」の観点から福祉保健課とも連携して実施する必要がある。				
方 策	引き続き高齢者を対象とした介護予防を目的とした運動と学習、また参加者同士の交流を通じての身体と心の健康維持を図るため、講師と内容などを打合せしながら進めていく。				

(4) 芸術・文化振興事業

事業名	第48回 音楽の広場				
事業目的	町内の音楽団体・サークル・愛好者が一堂に会し、合唱や演奏を発表する場として音楽会を開催する。また、情報交換と交流の場とすることを目的とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	1/29	公民館講堂	町民	訓小スクールバンド、訓中吹奏楽部、オニオン吹奏楽団、訓高吹奏楽部 出演 4団体 57名	161名
現状及び成果	町内の音楽団体・サークル・愛好者が一堂に会する音楽会である。子どもから大人までさまざまな年齢の町民が集い、交流の場としても定着している。平成22年度から社会を明るくする運動訓子府推進委員会との共催で開催している。開催時期について、夏休みの平日夜という開催日時が適当であるかどうかを出演者側と協議した結果、平成22年度からは夏休み中は除外し日曜日の日中に開催している。 令和3年度は感染予防として、スポーツセンターで実施したが、令和4年度は感染状況をみながら日時を延期し、公民館で開催した。				
課 題	町内の各学校や町内の吹奏楽団の参加は定着しているが、音楽サークルや町内で音楽活動を行っている音楽愛好家にも参加を促すことが必要である。令和6年度には50回目を迎える。50回記念についても検討していきたい。				
方 策	今後も各学校や町内の吹奏楽団の参加だけでなく、町内の音楽愛好家に参加を促し、さまざまな音楽ジャンルでの開催を目指す。また、ゲストを交えての開催も検討しながら、楽しみながら参加できる町民の練習(学習)成果発表の場として継続開催していく。				

事業名	開拓資料収集事業				
事業目的	開拓の労苦や歴史を物語る先駆者の汗と血と涙のにじんだ貴重な資料が、近年の技術革新や生活様式の変化によって急激にその姿が失われているため、収集・保存を図ることを目的とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	通年	町内	-	未収集資料、文書、写真等を中心に収集事業を継続実施 令和4年度:手紙、番傘、提灯等寄贈18点(寄贈者数 4人)	4
現状及び成果	歴史館収蔵資料を参考に未収集資料を継続して収集している。また、歴史館収蔵資料については、福祉保健課と連携し、「認知症展」と同時で資料展示を公民館で開催。映像資料等については、くねっぶ巡回講座での活用を図っている。				
課 題	令和4年度末現在、約6,000点を超える収集資料を保管(保存)しており、歴史館での展示を含めた資料の活用方法と同種の資料も多数あることから、収集・整理・保管方法(場所も含めて)について検討する必要がある。				
方 策	未整理、未公開、同種複数等の整理を実施しながら資料の公開と活用を行っていく。				

事業名	史跡標示板・保存樹木				
事業目的	(1)史跡標示板 訓子府町発展の歴史に深く関わりのある史跡を次の世代へ伝える。 (2)保存樹木 開拓とともに自然が失われていることから、自然に対する関心を持ってもらうこと、美観風致を維持する。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	通年	町内	-	(1)史跡標示板 14カ所に設置。 平成28年度に2カ所新設。 (2)保存樹木 13カ所23本を「保存樹木」に指定。	-
現状及び成果	高齢者教育事業のプログラム(町内バス見学)等でも文化財マップとノートと合わせて歴史や由来を紹介している。				
課 題	標示板設置の周知をホームページや広報、生涯学習情報紙等を活用しながら広く住民(子どもたちを含めて)への周知を行う必要がある。				
方 策	標示板や「文化財マップ・ノート」を活用しながら郷土の歴史と自然風致についての学習機会を積極的に町民に提供していく。				

事業名	文化・スポーツ表彰				
事業目的	常に顕著な努力を続け、文化・スポーツの発展に貢献し、今後の活躍を十分に期待できると認められる個人及び団体を表彰し、町の文化・スポーツの振興を図ることを目的とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	11/3	公民館 多目的ホール	町民一般	【功労賞】1個人(スポーツ1)・1団体(スポーツ1) 【奨励賞】1個人(スポーツ1)・3団体(文化1・スポーツ2)を表彰。	59名
現状及び成果	長年にわたり顕著な功績のあった指導者や団体を表彰する文化・スポーツ功労賞を新たに設けて実施し「被表彰者選定のための基準」の一部見直しを図りながら実施している。				
課 題	各種コンクールや大会の開催要領が多種多様化し、また、参加人数の減少等により、推薦基準を満たすものであっても表彰するかどうかの判断が難しくなっている。				
方 策	各地で開催されるコンクールや大会等の結果に関する情報収集や推薦団体との連絡を密にし、町の文化・スポーツの振興と奨励を目的とした事業として継続実施していく。				

事業名	くねっぶ:アート・タウン・プロジェクト				
事業目的	「文化芸術活動方針」に基づく総合的な文化・芸術振興事業としての実施と展開を目指すため、武蔵野美術大学との連携事業を実施し、互いの人的、知的、物資的な資源の交流と活用、文化・芸術、教育、まちづくり等の分野における協力と連携を行うことにより相互の発展とひとづくりを行うことを目的とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	7/22	柏丘スクールバス停	柏丘子ども会	バス停アート	11名
	8/6	清住スクールバス停	竹の子クラブ	バス停アート 協力:訓子府高校美術部	9名
	7/1~10/19	町公民館敷地内 町レクリエーション公園	一般町民	彫刻作品公開制作 制作者:早川祐太氏	82名
	7/23 7/24	町公民館	一般町民	彫刻ワークショップ 「粘土をねって未来を創る!?あなたの作品がパブリックアートに!」 講師:早川祐太氏	54名
	10/20	レクリエーション公園	一般町民	彫刻作品公開制作作品完成報告会	20名
	10/23	町公民館 レクリエーション公園	一般町民	パブリックアートめぐりツアー 講師:細井篤氏、彫刻作品公開制作者6名	27名
	2/12~13	町公民館	一般町民	うし型ワークショップ	10名
	2/13	訓子府高等学校	訓子府高等学校生徒	対話型作品鑑賞会	34名
	2/13	訓子府高等学校	訓子府高等学校美術部	交流事業	2名
	2/14	町公民館	若がえり学級 陶芸部	牛をモチーフにした陶芸ワークショップ	7名
	11/18 11/25 12/8	訓子府高等学校	訓子府高等学校生徒	作品鑑賞事業支援	51名
	6/15 10/7 2/17	町公民館	大人 (委員9名)	アート・タウン・プロジェクト企画委員会会議(3回)	14名
現状及び成果	<p>連携先の武蔵野美術大学、町民や町内の学校等の理解と協力を得ながら、訓子府町の歴史や文化、街並み、自然景観を題材にした文化芸術活動に取り組むことで、ふるさとの文化的地域資源を発見し、文化芸術振興を推進する上で、さらなる基盤づくりへと発展させることができている。また、令和元年度から町民が事業に参画する機会を設ける取組として「アート・タウン・プロジェクト企画委員会」を実施し、町民の意見や要望が事業に反映できるような体制を整えたことにより、町民の意見反映と参画の機会を提供できている。</p> <p>彫刻作品公開制作最終年度である令和4年度は、彫刻作品公開制作にも町民が携わり、パブリックアートめぐりツアーも開催し、住民と作品の関係を構築する礎を築くことができた。</p>				
課題	町民の事業への関心と理解を深めるための周知方法を工夫し、各プログラムの企画段階から参画できる体制づくりを整備・拡張する必要がある。また、彫刻作品公開制作が令和4年度に最終年度を迎え、令和5年度からはさらに住民主体的な活動にシフトしていくことが求められている。				
方 策	令和5年度からは「アートなまちプロジェクト」として、①住民の主体的な創作活動、②住民と作品の関係構築を主として展開していきたい。				

(5) 社会教育一般

事業名	生涯学習情報紙「まなベル」発行				
事業目的	社会教育、社会体育、こども園、児童センター・子育て支援センター・小中学校、高校、図書館、歴史館、給食センター関係の情報を、生涯学習情報紙として、町民に提供することを目的とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	4月～3月 (年12回)	-	-	生涯学習情報紙を毎月発行、町内全戸、管内市町村・関係機関・団体に配付。	発行部数 2,300部
現状及び成果	生涯学習や学校関係の情報を掲載した総合学習情報紙として、町民に定着している。平成26年度からは、社会教育、社会体育、図書館の事業報告関係の記事を定期的に掲載するようにしている。また、まなベルに掲載した内容をHPにも載せて周知している。また、「スポセン通信」「まなびのカレンダー」を両面印刷し、各公共施設に配置し、講座等で配付を行っている。				
課 題	より町民に親しみやすい紙面としていくため、住民の知りたい情報の掲載に努める必要がある。				
方 策	引きつづき事業や催しの周知をするとともに、事業の結果等を伝えていく。				

事業名	公民館ロビー開放事業				
事業目的	公民館ロビーを開放し、町民の芸術・文化・学習活動の発表の場と活動交流、情報交換を行えるようにする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	6/28～7/13	公民館ロビー	一般町民	絵手紙サークル作品展	—
	7/5～7/31	〃	〃	こども園七夕短冊展	—
	9/1～29	〃	〃	認知症展	—
	10/12～24	〃	〃	若がえり学級文化祭～文化展	—
	10/27～11/2	〃	〃	秋の文化祭文化展	—
	11/5～13	〃	〃	税の書道展	—
	11/22～12/13	〃	〃	津野町作品展	—
	1/11～24	〃	〃	若がえり学級書道展	—
	2/7～12	〃	〃	はげまし展	—
	3/12～26	〃	〃	牧野氏作品展	—
	3/22～29	〃	〃	絵手紙サークル作品展	—
現状及び成果	公民館のロビーを展示スペースとして開放している。年間を通して作品を展示することが可能なことから、個人・団体の交流の場になっている。また、公民館来館者からも好評の事業となっている。ロビーの利用希望は少しずつ増えている傾向にあり、日ごろの活動や学習の成果を発表する場として定着してきている。				
課 題	近年の状況からみると、定期的な利用はあるものの利用団体が固定化しており、さらなる事業のPRと公民館の備品を含めた新たな展示方法の提案が必要である。今後も日常的な学習・活動の成果を発表する機会として、個人利用もできるように小スペースの開放も推奨するなど、新たな展開方法を提案することも必要である。				
方 策	文化団体・サークルの活動発表の場としての活用や個人利用も含めて、多彩な展示内容や方法を発表できる場としての活用を図る。				

(6) 公民館開館40周年記念事業

事業名	公民館まつり				
事業目的	公民館開館40周年を記念し、公民館を利用する各種団体と町民有志で実行委員会を組織し、サークル同士の交流、日常的な活動・学習の成果発表の場として「公民館まつり」を開催した。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	6/26	公民館各室	一般町民	①体験ワークショップ ②ロビーコンサート	598名
現状及び成果	公民館まつり実行委員会を組織し、公民館まつりのプログラムや、チラシの内容等について話し合いを行った。新型コロナウイルスのまん延により、大きな行事は2年ぶりであったためか、当日は予想以上の参加者がいて、どのワークショップも大変賑わっていた。サークル同士の交流ができた、サークルに入会する人がいたり、参加者だけでなく、実行委員会側にも大きな収穫のある取組となった。				
課 題	ここ数年、公民館利用者の高齢化が進む中、公民館の利用も低迷している状況がある。				
方 策	「公民館まつり」を契機にできたつながりを大切に、日常的な活動や新たな活動などを支援し、公民館の定期的な利用につなげていく。				

事業名	町民参加劇				
事業目的	公民館開館40周年を記念し、町民が参加し、創りあげる「町民参加劇」を行う。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	10月～2月	町公民館	町民参加劇参加者	町民参加劇①顔合わせ ②台本読み合わせ会 ③舞台練習	延822名
現状及び成果	2/26	町公民館講堂	一般町民	町民参加劇 紡～訓子府結婚物語～ 公演	311名
	町民参加劇参加者を町民から広く募集し、町民参加劇を行った。令和3年度より準備事業を立ち上げ、演劇の招致、公民館講座として「表現の楽しさを体験しよう！」「聞き書き講座」を実施した。「聞き書き講座」で聞き取った内容を台本にいかし、有志が集まって「台本づくりワークショップ」を行い、参加者自身で話し合いながらの台本づくりを行った。台本づくり・練習、さまざまな場面で仲間が少しずつ増えていき、当日も250名を超える観客が来場した。「訓子府町」を題材とした演目であったため、演者と観客が一体となって舞台を作り上げていくような体感を得られた。				
課 題	公民館利用者の高齢化が進む中、多世代での交流を進めていきたい。				
方 策	幼児から高齢者まで一つの劇を作り上げる過程を通じて、多世代での「仲間づくり」を実感したとの参加者の声もあり、町民参加劇でできたつながりを大切にしたい取り組みを継続していく。				

8. 図書館の活動状況

(1) 図書館活動事業

①子どもの読書推進

事業名	子どもの読書活動推進(1)幼児期の読書				
事業目的	子どもの誕生を祝うとともに、乳幼児期からの絵本への親しみ、家庭読書の定着及び読書の普及を図る。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	人数等
	4月～3月	図書館／健診会場	①新生児 ②1歳6ヶ月児	【健やか絵本贈呈事業】ブックスタートとして、新生児及び1歳6ヶ月児へ絵本を贈呈	①16名 ②18名
	4月～3月	図書館	①0-1歳 ②2-3歳 ③4-5歳	【親子えほんセット貸出】対象年齢別に1組3冊をセット。各5組を用意。	選定絵本4回更新
	年11回	子育て支援センター	乳幼児と保護者	子育て支援センターでの読み聞かせと絵本紹介	117名
	通年	図書館	幼児・小学生・保護者	【いつでも絵本の読み聞かせ】来館者の求めに応じて随時実施	
	5月	図書館	乳幼児を持つ保護者	【図書館サービス PR リーフレット】乳幼児を持つ保護者へ向けた PR リーフレットを作成、図書館に配置するだけでなく、民生児童委員を通じて対象者へ配付	
	6月	図書館／子育て支援センター／こども園	乳幼児と保護者	【年齢別おすすめ絵本リスト】①0-1歳、②2-3歳、③4-5歳の絵本リストを作成、配布	
現状及び成果	子ども未来課と連携し、新生児及び1歳6か月児に絵本贈呈のほか、子育て支援センターに向いての読み聞かせを毎月実施。親子えほんセットの貸出も定着しつつあり、親子で絵本を親しむ機会の充実を図っている。				
課題	絵本贈呈後の親子の図書館利用の定着につなげていくため、親子えほんセットを開始し、令和4年度からは新たに図書館サービスが記載された PR リーフレットも配付するなどしたが、引き続き乳幼児を持つ保護者への働きかけを続けていくことが必要。				
方 策	絵本贈呈は、来館時での絵本贈呈の際に利用案内や PR に努める。 引き続き、民生児童委員等と連携し、乳幼児を持つ保護者へ直接図書館利用の働きかけに努める。				

事業名	こどもの読書セミナー「おはなしの種まき」				
事業目的	家庭における子どもの読書環境を整えるとともに、子どもたちが積極的に読書活動を行う意欲を高めることを目的とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	人数等
	10月29日	図書館	親子 (幼児と保護者)	【講演】 親子向け読み聞かせ講座、子ども向け指遊び、うた遊び	13名
現状及び成果	全国各地の保育園・幼稚園、図書館で、講演を行っている下吹越 かおる氏(鹿児島県指宿市立図書館長)を講師に、親子のふれあいを中心とした読み聞かせ講座やうた遊びを実施した。				
課題	親子のふれあいの機会として家庭での読み聞かせの定着が図られるよう、保護者を対象にした読み聞かせ講座や絵本選びのコツ等を学ぶ機会の提供が必要。				
方 策	絵本の読み聞かせ実演指導だけでなく、絵本をとおした親子の「ふれあい」を主軸とした講座企画を行う。				

事業名	子どもの読書活動推進(2)学校等との連携				
事業目的	学校と図書館が連携して子どもの読書活動の充実を図るとともに、図書館による学校への読書環境整備の支援を行う。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	人数等
	3月7日	図書館	各学校図書館担当教諭	【子どもの読書活動推進会議】各学校での読書活動、図書館からの支援について協議、情報交換。	7名
	4月～3月	各小中学校	児童・生徒／教諭	【学校図書館活動支援】各学校図書室へ司書派遣。学校図書室活動の支援、環境整備、ブックトーク、資料提供等の授業支援を実施、学校図書館連携システム運用支援	担当1名 【派遣日数】 訓小 41日 居小 14日 訓中 10日
	4月～3月	児童センター／各小学校	関係施設	【図書配置】①児童センター、②訓小図書室、③居小ブックラックに図書配置	①150冊 ②300冊 ③100冊
	4月～3月	各学校	児童・生徒	学校(学級)への団体貸出	訓小 82回 居小 2回 訓中 9回 計 5,838冊
	5月～2月	図書館	各小学校児童	読書記録のノートを配付。年度末に各学年で最多読書冊数者6名にマスターカードを進呈。	ノート配付 246冊 (参加21名)
現状及び成果	令和元年度から各小中学校図書室へ司書派遣を開始し、学校図書室活動の支援を行っている。 教育関係施設に図書配置、団体貸出を行い、読書環境整備の支援を行っている。 児童の読書習慣の定着を図るため、読書ノート事業を継続実施。 令和4年度より学校図書館システムの運用を開始した。				
課題	子どもの読書の成長記録のための読書ノートの定着のほか、学校図書館システムの活用についても、継続して支援を続けていき、定着化を図る必要がある。				
方 策	令和4年度から各小中学校で運用開始している学校図書館システムを活用し、読書環境の整備を継続して支援する。				

事業名	①子どもブッカー教室／1日図書館員 ②クリスマス会				
事業目的	児童・生徒向けの事業として実施し、図書館への親しみや本の仕事への関心を持ってもらう。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	人数等
	7月26日	図書館	小学生	【子どもブッカー教室】ブッカー貼りの体験・講習会	3名
	7月26日	図書館	小学4～6年生	【1日図書館員】ガイダンス、ブッカー貼り、貸出・返却、POP作り	3名
	12月11日	図書館	小学1～4年生	【クリスマス会】工作「オリジナルスライムをつくろう」	11名
現状及び成果	児童・生徒の体験事業として、図書館の本や仕事への興味のきっかけづくりとなっている。クリスマス会については、例年定員をオーバーするほどの人気事業となっている。令和4年度は実施日を第二日曜日にて、日曜開館の周知にもつなげた。				
課題	各事業とも、毎年参加人数が定数を越えた応募があるため、継続していきたい。				
方 策	事業については、企画段階で社会教育課と日程・内容調整を図りながら、図書館の特性を活かした工作体験のメニューを工夫し実施していく。				

事業名	児童・生徒読書感想文コンクール				
事業目的	児童・生徒への読書の普及と大切さを啓蒙するとともに、「読む力」を身につける。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	人数等
	11月	図書館	小学生～高校生	応募数 小学生 241点／中学生 0点 ／高校 57点	298点
	10月26日～11月9日	図書館	小学生（低学年）	読書感想画奨励賞作品展示	20点
現状及び成果	子どもの読書離れが懸念されているなか、各校の協力により、小学校だけでなく、高校からの応募もあった。				
課題	各校ともに授業中に読書感想文への取り組み、指導を進めるのが難しくなっている現状があり、コンクールの持ち方を検討する必要がある。				
方 策	令和5年度からは、感想文のほか、POP部門を新設し、児童・生徒が選択できるようにする。				

事業名	放課後図書館くらぶ <3館連携事業>				
事業目的	公民館、スポーツセンターと連携して、放課後児童の利用拡大を図る。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	人数等
	5月2日	図書館	小学生	アニメ「おしりたんてい ププッふめつのせつとうだん 前編/後編」	16名
	7月4日	図書館	小学生	※中止 豪雨による緊急下校のため	0名
	9月5日	図書館	小学生	アニメ「はたらく細胞 すり傷」	11名
	10月3日	図書館	小学生	アニメ「おしりたんてい ププブラウンものがたり」	17名
	11月7日	図書館	小学生	アニメ「はたらく細胞 インフルエンザ」	25名
	12月5日	図書館	小学生	アニメ「ゲーフィー ゲーフィーのスキー教室」「トゥイーティー 雪の日の出来事」「チップとデール リスの冬支度」	11名
	2月6日	図書館	小学生	アニメ「おしりたんてい ププッおきゃくさんのわすれもの」「ぴったんこ！ねこざかな 11話・12話」	12名
	3月6日	図書館	小学生	アニメ「はたらく細胞 肺炎球菌」	18名
現状及び成果	3館連携事業として、図書館では毎月第1月曜日に事業を実施。小学生には「映画会」として浸透している。				
課題	上映会以外の内容の工夫が必要。30分程度(バスを待つ時間)でできる工作等の実施。				
方 策	児童書や絵本でもなじみ深い作品の上映会を基本としながらも、工作等も取り入れ、事業を実施していく。				

事業名	子ども映画会（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）				
事業目的	絵本や児童文学を題材としたアニメ作品を親子で楽しむ機会を設ける。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	人数等
	8月2日	公民館講堂	幼児~一般	「劇場版トムとジェリー」	0人
現状及び成果	町内で児童の新型コロナウイルスの感染が拡大していたため、実施を中止した。				
課題	浸透しつつある事業ではあるが、令和4年度に実施できなかったため、令和5年度は広く周知に努めたい。				
方 策	今後も広い会場を使用し、鑑賞環境を整えて実施する。				

②生涯読書の推進

事業名	各種支援(高齢者ふれあい事業・生活習慣病予防・高齢者サービス)				
事業目的	高齢者等幅広い年代に図書館利用 PR、高齢者との交流を図るとともに、予防対策事業(健診)に関連した情報提供を行い、町民の健康に対する関心の高まりを支援する。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	人数等
	6月21日	公民館	ふれあいサロン参加者等	【ふれあいサロン】社会福祉協議会主催事業で読み語りを実施。	50名
	※コーナー中止 年5回	公民館ほか	一般	【特定健診会場で図書コーナー設置】関連図書の展示、図書リストの配付。 ※コロナ対策のため、図書コーナーは中止	
現状及び成果	令和2・3年度と中止になっていた「ふれあいサロン」の実施により、読み語りの読み手として参加することができた。社会福祉協議会と連携し、高齢者の読書活動に携わられた。				
課題	本事業だけでなく、他の高齢者事業との関わりを持てるような事業の検討が必要。				
方 策	今後も他の関係機関との連携を図りながら、支援活動を展開していく。				

事業名	いしかわこうじ絵本ライブ<親子で絵本と遊ぼう>				
事業目的	全国的に活躍している絵本作家を招いて、自作絵本の読み語りや絵本の楽しさについて講演してもらうことで、本に親しみを覚えてもらい、子どもたちが積極的に読書活動を行う意欲を高めることを目的とする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	人数等
	9月4日	公民館	親子	絵本作家いしかわこうじ氏による自作絵本の読み聞かせとワークショップ「ペーパーわんこ」の実施。	38名
現状及び成果	参加の対象を「親子」にしぼって、ワークショップをメインに講演を実施した。紙で作った小さな犬「ペーパーわんこ」を作成するなかで、親子が1対1で向き合えるふれあいの場となったのではないかと。				
課題	親子で取り組む作業というのが、好評だった。今後も事業の企画、運営の工夫が必要。				
方 策	今後も各種講演等の情報収集をして、開催していきたい。				

事業名	古本市				
事業目的	町民からの寄贈本や図書館の除籍資料を有効に活用するとともに、図書館活動をPRしていく。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	人数等
	11月23日	公民館	幼児・小学生、一般	古本1冊を10円で販売。 参加児童へは受付で配布した引換券と交換で、古本1冊をプレゼントした。	199名 【販売額】 9,460円
現状及び成果	令和4年度は4月、8月と古本市の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2度の開催中止となった。図書館単独で実施(例年こどもまつりと同日開催)したこともあり、参加児童が例年に比べ少なかった。				
課題	令和4年度は開催時期の度重なる変更から、参加者は例年の3分の1に減少した。				
方 策	令和4年度は全体の参加者は減少したものの、町外からの参加者が増加した。今後はHPやSNSにも注力して周知をしていきたい。 基本的な感染対策は変わらず実施し、参加者の不安感に配慮していきたい。				

事業名	本の福袋				
事業目的	年末年始に読書を楽しむ事業として、未知の本との出会いにより読書の拡がりを期待するとともに、家庭での読書活動をPRする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	人数等
	12月24・26・27	図書館	一般町民	年末年始の読書用として、一般・中高生・児童・幼児向け図書、各5冊を福袋にして貸出を行った。	53セット
現状及び成果	令和3年度に設けた中高生部門は好評だったため、セット数を5セット追加した。実施前日に各学校が臨時休校になる大雪に見舞われ、初日の来館者数が振るわなかったが、2日目、3日目と利用が増加した。				
課題	利用者からの要望が多岐にわたっており、ニーズの把握と調整に努める必要がある。				
方 策	利用状況と福袋利用者へのアンケートによるニーズの把握に努め、内容やセット数を変更するなどして、サービスの充実に反映させる。				

③図書館サービスの充実と施設整備

事業名	図書館資料整備			
事業目的	図書館サービスの根幹となる資料の購入整備を行う。			
実績	実施時期	種別	内容	冊数
	4月～3月	図書購入整備	図書の購入整備 (一般書等 1,825 冊・児童書・絵本・紙芝居 1,041 冊)	計 2,866 冊
	4月～3月	雑誌購入整備	新聞・雑誌の継続購入整備 (新聞3紙・雑誌 54 タイトル)	雑誌計 555 冊
	6月	視聴覚資料整備	子ども映画会用のDVDビデオ購入整備	DVDビデオ 2本
現状及び成果	図書資料の充実を図るとともに、雑誌については、休廃刊の状況に対応し、ニーズに合わせた購入タイトルの入替えを行っている。			
課題	利用状況を勘案し資料整備を図っているが、購入冊数が限られる。また、現施設では収容冊数に限界があり、書棚によっては、貸出等の利用は多いが、収納スペースが狭い箇所ができてしまう。			
方策	相互貸借による資料提供を拡充させながら、リクエスト等利用者の要望や資料要求に応じていく。			

事業名	図書館資料提供(貸出・移動図書等)				
事業目的	図書館での貸出及びサービス網拡大を図り、図書館に来館できない方へのサービスを行う。				
実績	実施時期	場所	対象	内容	冊数
	4月～3月	図書館	幼児～一般	本の貸出	38,905 冊
	毎週1回	居武士小	小学生	本の貸出	3,856 冊
	毎週1回	日出地区ふれあいセンター	一般	本の貸出(本の入れ替え)	341 冊
	月1回	こども園	1歳児	本の貸出	272 冊
	毎週1回	利用者宅	一般	宅配	752 冊
現状及び成果	宅配については、福祉施設での利用者が増加している。 移動図書は、こども園や学校との連携を継続していく。				
課題	一般成人へは高齢者はもちろんのこと、出産、育児等による一時的に外出が困難な方への宅配のサービスも実施しているが、後者の利用件数が伸びていないのが現状。				
方策	宅配について、一時的に利用できることも含めて継続して周知する。				

事業名	積極的な情報発信(資料情報/展示活動、インターネットサービス)				
事業目的	利用の促進と図書資料の有効活用を図る観点から、蔵書情報の積極的提供や、インターネットサービスの充実を図る。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	冊数
	月1回	図書館ほか	児童～ 一般	【新刊図書案内】毎月、一般向けと児童向けの新刊案内を作成し、館内等に配置・学校等へ配布	一般 350 部 児童 335 部
	4 回	図書館	一般	【展示活動】「1日図書館員おすすめ本」/読書感想画等	
	9 月	図書館	一般	【アルツハイマー展示】福祉保健課と連携し、アルツハイマー月間に合わせた認知症に関する図書の展示。	
	18 回	図書館	一般	【テーマ展示】時事的な話題、季節の行事等テーマに合わせた図書展示。	
	4 月～3 月	図書館		【ツイッター】図書館事業やお知らせなどの情報発信。「ちょっといいねおすすめ動画」も合わせて発信。	376 件 (累計 1,987 件)
	4 月～3 月	図書館	一般	【インターネットサービス】①蔵書検索、②本の予約や利用状況の確認、「ブックリスト管理」で読書記録を整理、管理、③テーマに合った新着本のメール配信サービス	①検索 345,264 回 ②予約 56 件 ③264 人
現状及び成果	新刊案内、テーマ展示については利用者に定着しつつある。 ツイッターによる情報発信は、図書館のお知らせや周知のほか、社会教育・社会体育の情報、「ちょっといいね おすすめ動画」も継続して発信している。 令和4年11月、業務システムの更新により、インターネットサービスも一部利便性が図られた。				
課 題	積極的なインターネットサービスの利用案内の必要性。				
方 策	充実したインターネットサービスの、活用方法や周知に今後も努めていく。				

事業名	サービス充実・今後の図書館整備に向けた取り組み				
事業目的	図書館での貸出及びサービス網拡大を図り、町民の読書への関心と読書環境の整備を図る。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	冊数
	12 回	図書館	幼児・児童	【図書館こどもの日】第 2 土曜日。本を借りた幼児・児童へ除籍した本 1 冊をプレゼント。	64 冊
	月 1 回 (12 回)	図書館	児童～ 一般	【お試し日曜開館】第 2 日曜日。町民のより利用しやすい曜日、時間を検討するために試行として開館。	来館者数 243 名 貸出 1,091 冊
現状及び成果	サービスの充実については、日曜開館の利用者が定着しつつあるが、新規利用者の開拓に直接つながっていない。				
課 題	図書館整備に向けた取り組みについては、継続して「町読書活動推進計画」(令和元年度策定)の進捗状況・点検及び検証を行い、具体的に準備を進めていくことが必要。				
方 策	新型コロナ禍以降、児童の利用状況は回復しているが、一般成人の利用は減少したまま、回復が見られない。新たなサービスを模索していく必要がある。				

9. 社会体育の活動状況

(1) 社会体育推進事業

事業名	スポーツ教室				
事業目的	各教室を開設し、運動を通じて健康・体力・仲間づくりを図るとともに、体育施設の利用拡大を図る。				
実績	実施時期	場 所	参加対象	内 容	参加人数
	5月下旬	スポーツセンター	児童	ジュニアランニングスクール(5回)	中止
	5月下旬	スポーツセンター	児童	ジュニアスイミングスクール(5回)	中止
	6月	温水プール	全年齢	プールで遊ぼう(3回)	中止
	7/1～7/21	温水プール	幼児	幼児スイミングスクール(5回)	67名
	7/6～8/3	温水プール	一般	アクアビクス教室(5回)	36名
	7/22～8/16	スポーツセンター	全年齢	夏休みスポセン開故事業(7回)	85名
	8月	温水プール	全年齢	夏のプールで遊ぼう	中止
	10月	レクリエーション公園	一般	ノルディックウォーキング(1回)	中止
	11/11～12/16	スポーツセンター	児童	スポーツリズムトレーニング(5回)	43名
	12月下旬	スケートリンク	児童	ジュニアスケート教室	中止
	12/26～1/13	スポーツセンター	全年齢	スポセンで遊ぼう(冬休み)	82名
	1/5・6	町営スキー場	児童	ジュニアスキー教室(2回)	29名
	2月中旬	スポーツセンター	一般	メンズヨガ教室	中止
	2月中旬	スポーツセンター	一般	プロジェクトK	中止
	3月上旬	スポーツセンター	親子	親子で運動遊び教室	中止
	4月～3月	スポーツセンター	全年齢	クライミング安全講習会(7回) クライミングチャレンジデイ	70名
	3/25～4/5	スポーツセンター	全年齢	スポセンで遊ぼう(春休み)	252名
	12/26～2/20	スポーツセンター	一般	肉体改造講座(福祉保健課連携事業 8回)	148名
	2/7～3/14	スポーツセンター	児童	小学生の運動神経を伸ばす！教室(6 回)	141名
3/7・14	スポーツセンター	一般	運動しない運動教室(2回)	37名	
現状及び成果	4月～12月上旬までは新型コロナウイルスによる事業の中止・変更が続いたが、徐々に通常通りの開催に近づいている。大人の教室はインストラクターによる指導がメインとなるため、キッズ・ジュニア向けの教室が中心となっている。保護者の声から生まれた小学生の複合種目教室は、定員を大幅に超える盛況となった。				
課 題	1年生から少年団に入る子どもが増加したため、放課後の時間に余裕が無くなっているため、平日の日中に行っていた教室の参加者が減少し、夜間や土日開催の教室にニーズがある。 新型コロナウイルスの感染拡大期間に中止となっていた教室等の再開について内容の整理が必要。				
方 策	専門種目の教室よりも、複合型の体験的な内容が求められているため、内容を整理し企画する。 教室の開催時間について、共働き世代でも参加しやすい時間・曜日設定を検討する。 SNSを通じた教室の情報発信を行う。				

事業名	子ども体カテスト(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)				
事業目的	自己の体力を知ることによって、劣っている部分を鍛え、これからのスポーツ活動に生かし、スポーツ意欲を高める。前回との比較ができるデータを個人に配付することで、体力の到達度が明確に理解でき、今後の励みとする。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	12/3	スポーツセンター	町内小中学生	新体カテスト(文部科学省)に基づいて実施	中止
現状及び成果	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。				
課 題	学校授業においても体力測定を実施していることから、教育委員会主催の体カテストについては年々参加率が減少傾向となっているため、実施目的と効果について検討が必要。				
方 策	3年間中止となっているため、今後の開催方法について改めて検討が必要。				

事業名	ロードレース大会				
事業目的	1km、2km、3km、5kmのコースで行い、普段の体力を確認するとともに健康・体力づくりを図る。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	5/21	河川敷堤防	幼児～一般	学年別のコースを走る	162名
	9/3	河川敷堤防	幼児～一般	学年別のコースを走る	139名
現状及び成果	毎年ロードレースを目標にしている子や、走るのが苦手な子はロードレースでいい結果を出すために頑張っている。令和4年度は可能な限りの新型コロナウイルス対策を行い、春・秋2回開催することができた。				
課 題	新型コロナウイルス以降、参加者が減少している。現在のコースは窮屈であるため他会場の検討が必要。				
方 策	学校での参加とりまとめが難しくなったことに新型コロナウイルスの流行が重なり、参加者が大幅に減っている。 ロードレース大会については、伝統行事となっている側面もあることから、運営方法を協議しながら継続する。				

事業名	KAPPAマスターズ水泳大会(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)				
事業目的	温水プールの利用者拡大と体力・健康維持増進と水泳愛好者の交流を図るため開催する。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	11/6	温水プール	18歳以上の男女	自由形・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ・個人メドレー・各種団体リレー	中止
現状及び成果	全道各地から100名を超える参加者が集まっており、地元特産品の抽選会など交流会の側面を持つことから管内的には最も人気のあるマスターズ水泳大会となっている。しかし、水泳人口の減少から町内の参加者は1割程度となっており、訓子府町で開催する必要性が問われている。審判員も減少傾向や大会運営で使用する機械等の更新費用も増加しており、年々大会の運営が難しくなっている。 令和2年度・3年度・4年度と3年連続で新型コロナ感染拡大防止の観点から中止となった。				
課 題	自動審判判定装置の劣化が激しく、数年で使用不可となる可能性が高い。 施設の規模に対して参加者が非常に多く、密集した大会運営となっていることから、距離を確保して大会を開催することは非常に難しい。大会開催に係る労力に対して、町民への効果が薄れている。				
方 策	スポーツセンター・公民館を活用した大会の運営方法を模索する。 北見水泳協会と連携を図りながら、審判員と役員の確保に努める。 将来的な大会内容について町内の水泳団体と協議を行う。				

事業名	地域スポーツ指導者派遣事業				
事業目的	学校からの要望により授業に民間指導者を派遣し、子ども達との交流を通じて、地域の教育力の向上を図る。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	6/13～7/20	温水プール	小学生	訓小水泳授業(20回)	651名
	6/13～7/20	温水プール	幼児	こども園プール授業(2回)	26名
	1/18～2/8	居小リンク	小学生	居小スケート授業(7回)	179名
	2/3	ノーザンアーク スキーリゾート	小学生	居小スキー授業	23名
	1/17～2/20	町営スキー場 八方台スキー場	小学生	訓小スキー授業(24回)	861名
現状及び成果	町内の指導者は長年指導を継続していることから、技術や意欲の向上など、大きな成果を上げている。教員の中でも経験者が減少しており地域指導者派遣については非常に好評を得ている。				
課 題	派遣要請がある時間は平日の日中であることから、指導者の確保に苦慮している。水泳の指導者派遣においては、派遣する指導者の高齢化が進んでおり、昨年からは町外の指導者に派遣を依頼している状況。(水泳少年団等の指導者は複数いるが、働いているため日中派遣できない)				
方 策	地域指導者の発掘や育成に取り組み指導者の確保に努めたい。 派遣する人材について見直しが必要。広域的な指導者派遣も今後検討する必要がある。				

事業名	大会派遣費				
事業目的	町内のスポーツ振興のために全道及び全国大会に出場する経費の一部を補助する(訓子府町社会教育・社会体育関係大会等派遣費補助要綱に基づいて派遣)。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	4/29～5/1	釧路市	指導者	アルテミスカップ 第1回記念北海道小学生バレーボールフェスティバル	2名
	7/23～7/24	苫小牧市	小学生・指導者	日清食品カップ第40回北海道小学生陸上競技大会	3名
	6/25～6/26	中標津町	小学生・指導者	第42回全本バレーボール小学生大会 北北海道大会	12名
	8/26～8/29	広島県福山市	小学生	2022瀬戸内少年軟式野球広島県交流大会北海道選抜U-15	2名
	10/14 ～10/16	江別市	小学生	ななかまど杯第28回北海道小学生バレーボール大会	12名
	11/26 ～11/28	茨城県水戸市	一般	第5回全日本社会人O-40バスケットボール選手権大会	1名
現状及び成果	令和3年度は新型コロナウイルスによる大会中止が相次ぎ、補助金の申請が無かったが、令和4年度は大会が再開され、6回補助金を交付した。				
課 題	現補助要綱は、選抜チームや予選の無い大会に対する規定が乏しいため、今後の状況を踏まえ要綱を整理する必要がある。				
方 策	派遣要綱・運用基準の該当者漏れを防ぐために関係機関、団体等との連携を密にし、情報収集を図る。				

事業名	生涯健康づくり促進事業(よくばり健康プログラム)				
事業目的	気軽に楽しめるスポーツ活動を実施し、生涯にわたってスポーツをする習慣と健康づくりを促進する。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	11/4~12/19	公民館	一般町民	ひめトレ(5回)	40名
	12/16~1/27	公民館	一般町民	和みの整体Yoga(5回)	35名
	2/9~3/16	公民館	一般町民	簡単エアロビクス(5回)	54名
現状及び成果	インストラクターの実施している教室とは視点を変えた健康づくりプログラムを実施している。それぞれのプログラムが全く異なった内容となっているため、冬期間における健康づくりの推進が図られているが、参加者は年々減少している。				
課 題	冬期はスポーツセンターが空いていないため、公民館で実施している。グループレッスンの参加者が増加傾向にある一方、よくばり健康プログラムは参加者が減少傾向にある。				
方 策	インストラクターの教室と差別化を図り、チャレンジ要素を含んだ教室としたい。				

事業名	放課後スポーツ大作戦(3館連携事業)				
事業目的	子どもたちの放課後の居場所の確保と、スポーツセンターをはじめとする社会教育施設に親しみを持ってもらうために各館月1回休館日である月曜日に施設を開放している。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	5/9	町スポーツセンター	参加児童	トランポリン・クライミング	29名
	6/13	町スポーツセンター	参加児童	キンボール・パラスポーツ体験等	29名
	7/11	町スポーツセンター	参加児童	エアフローター・モルック等	35名
	9/12	町スポーツセンター	参加児童	ポッチャ・玉入れ投	18名
	11/14	町スポーツセンター	参加児童	ニュースポーツで遊ぼう他	18名
	12/12	町スポーツセンター	参加児童	ミニ玉入れ大会・車いすバスケット等	8名
	2/13	町スポーツセンター	参加児童	スポーツチャンバラ・気配切り等	10名
	3/13	町スポーツセンター	参加児童	トランポリン・クライミング等	30名
現状及び成果	スポーツセンターの休館日を利用し児童に開放することによって、楽しみながら日常的に体を動かす機会を提供できた。これまで使用頻度の低かったトランポリンが子どもたちに人気となっている。				
課 題	長時間の実施かつ自由来館のため、実施内容に工夫が必要。 休館日は職員が屋外での作業が中心となるため、参加者が多い日の指導人員配置が課題。 実施内容がマンネリ化しないよう準備するも、当日の参加者によって内容を変更する必要がある。				
方 策	今後も公民館・スポーツセンター・図書館が連携し、児童期から社会教育施設に親しめる事業を展開していく。現在はトランポリンとクライミングを中心に体験型の種目を多く実施しているが、町民と連携した事業展開を検討する。				

事業名 スポーツセンター等運動指導事業					
事業目的 BodySwitchの部田インタラクターと連携した健康づくり事業					
	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
実 績	4月～3月 毎週火・水	スポーツセンター	一般町民	「痩せ活HIITトレーニング」 短時間で脂肪を燃やす高強度インターバルトレーニング	448名
	4月～3月 毎週金曜		一般町民	「お昼のグループレッスン」 昼の時間帯に行うストレッチ講座	350名
	4月～3月 毎週火曜		一般町民	「夜のグループレッスン」 夜間に行うグループレッスン、働き世代や若者をターゲットに開催。	315名
	4月～3月 毎週水曜		一般町民	「朝のグループレッスン」 午前中に行うグループレッスン。主婦層や高齢者を中心にプログラムを展開。	666名
	4月～3月 毎週火水金曜		一般町民	「パーソナルトレーニング」 事前予約制のマンツーマン運動指導、メニュー作成や機器の使い方も指導。	110名
	11月～3月 毎週金曜		子育て支援センター利用者	「カラダケア」 子育て世代向けのからだメンテナンス。子育て支援センターとの連携事業として実施。	48名
	11月		一般町民	「うらら出張指導」 健康月間の取り組みとして、総合福祉センター「うらら」の体力増進室で運動指導を実施。(事前予約制)	8名
	随時		一般町民	「出張INBODY測定会」 INBODY測定機をイベントに持ち込み、多くの方にINBODY測定を体験してもらう。	110名
	随時		一般町民	「団体・サークル・イベント指導」 ・子育て支援センターミニ講座(15名) ・東町町内会運動指導(38名) ・健康推進委員研修会(17名) ・公民館講座「温活講座」15名	85名
	火曜18時～ 水曜9時～ 金曜13時～		一般町民	「健康づくりサポート事業」 毎週3回実施する健康づくりサポート事業。マシンの使い方や運動処方を実施。	809名
現状及び成果	4年目となるインストラクターの指導は、継続的な参加者と新規の参加者のバランスが良く、運動習慣の定着にも一定の成果をあげている。令和4年度からは「子育て支援センター」「こども園」との連携事業がスタート、大人の運動教室を定着させつつ、新たな事業展開も進んでいる。				
課 題	高齢者やスポセンまで来れない方に対するアプローチが課題となっている。子どもの体力向上や未就学児期からの体力向上事業が必要。				
方 策	積極的に外部指導を行うなど、来るのを待つのではなく、こちらから出ていく活動を推進。地域と協働で健康づくりを進め、斬新かつ先進的な取り組みを行う。また、未就学児が遊びながら運動もできる場所をスポーツセンターに設置する。				

事業名	団体要請による事業				
事業目的	各団体等の要望により、講習会を開催する。				
実績	実施時期	場 所	対 象	内 容	参加人数
	7/1～9/30	公民館駐車場	一般町民	くねっぷラジオ体操 (ラジオ体操会と共催) 75回	1,153名
現状及び成果	ラジオ体操は夏の風物詩として、多くの町民が参加しているが、新規の参加者が少ない。				
課 題	ラジオ体操会の高齢化により、今後数年で会が解散する方向で進んでいる。				
方 策	参加者同士でラジオ体操を運営できるよう協力体制を構築する。				

10. 社会教育推進の基盤整備事業

(1) 公民館

事業名	公民館特定建築物定期調査報告書作成
事業目的	建築基準法第12条(安全基準)に基づく定期報告の対象となっているために調査報告書の作成を行う。
事業内容	公民館特定建築物定期調査報告書作成業務 事業費352千円
事業成果	法に基づく点検と調査を行うことにより、日常点検では見つけられない不具合箇所の確認や修繕方法等の指針となる情報が得られた。

事業名	公民館舞台吊物等点検
事業目的	公民館講堂ステージ等に設置している緞帳や照明器具等の定期的な点検や部品交換を行う。
事業内容	公民館舞台吊物等点検業務 事業費792千円
事業成果	従来から点検は5年に1度実施してきたが、施設の老朽化に伴い吊物落下等の事故を未然に防ぐため3年に1度の実施とし、より安全で安心な学習環境の提供と施設整備に取り組むことができた。

事業名	公民館陶芸用電気窯購入
事業目的	公民館農林産実習室の陶芸用電気窯は、設置から20年が経過しており傷みが激しく、修理が難しくなったことから更新する。
事業内容	公民館陶芸用電気窯購入事業 事業費2,915千円
事業成果	以前から公民館利用者懇談会等でも強い要望が寄せられてきたが、陶芸窯を更新したことによりサークル活動や公民館講座、学校授業等における陶芸活動が支障なく行えるようになった。

(2) くねっぶ歴史館

事業名	くねっぶ歴史館ストーブ更新
事業目的	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、老朽化したストーブを更新し、十分な換気を行える環境を整備する。
事業内容	1階展示室及び事務室の計4台の更新 事業費 1,000千円
事業成果	老朽化により暖房効率が低下し、故障も多発するようになったため、秋冬期間の十分な換気が行えない状況にあったが、更新したことにより十分な換気を行えるようになった。

(3) 温水プール

事業名	競泳用自動判定装置修繕
事業目的	競技に必要な正確な判定を行う自動審判判定装置(着順を感知する装置)を設置する。
事業内容	表面パネル(タッチパネル)に歪みが生じ、使用できなくなったため、一部の部材を交換する。 事業費 605千円
事業成果	修繕前の誤作動も解消され、正確な判定が行えるようになった。

事業名	玄関スロープ修繕
事業目的	経年劣化により傷んだ既存のタイルを撤去し、スロープに滑りにくいゴムマットを設置する。
事業内容	玄関スロープタイルの撤去とゴムマット設置 事業費 495千円
事業成果	子どもから大人まで幅広い年齢層が利用する施設のため、雨天時でも滑りにくいゴムマットをスロープに敷くことにより安全性が高められた。

(4) 屋内ゲートボール場

事業名	屋内ゲートボール場ストーブ更新
事業目的	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、老朽化したストーブを更新し、十分な換気が行える環境を整備する。
事業内容	競技コート及び管理係員室の計4台の更新 事業費 1,749千円
事業成果	老朽化により暖房効率が低下し、故障も多発するようになったため、秋冬期間の十分な換気が行えない状況にあったが、更新したことにより十分な換気を行えるようになった。

(5) 屋外運動施設

事業名	野球場トイレ改修修繕
事業目的	野球場のトイレを従来からの和式から洋式へと改修することによって、使いやすい施設整備を図る。
事業内容	野球場トイレ改修修繕事業 事業費 495千円
事業成果	屋外運動施設のトイレは、ほとんどが和式便器のため、洋式への更新を要望する声が少年団等からあがっていたが、改修により使いやすい施設となった。

事業名	パークゴルフ場等散水用ポンプ購入
事業目的	高温・少雨等による干ばつ時におけるパークゴルフ場の芝生再生・養生のため、散水用ポンプを購入する。
事業内容	パークゴルフ場等散水用ポンプ購入事業(ポンプ本体 1台、ホース 5本) 事業費 1,303千円
事業成果	本町のパークゴルフ場は、河川敷の特性により表土が薄く、干ばつ期に芝生が枯れるなどの被害が生じているが、緊急の対応として散水を行うことにより、芝生の保護と育成を促すことができた。

(6) 図書館

事業名	図書館コンピュータシステム更新事業
事業目的	効率的な蔵書管理、図書貸出管理の向上を図るために従前からのシステムを更新する。
事業内容	従来のシステム機器(R2.10に賃貸契約が終了し無償譲渡されたもの)を更新。 事業費 1,249千円
事業成果	従前の業務システムを継承したシステムを更新したことにより、将来の図書館整備時における接続機器台数増や機能拡充に対応できるようにしている。

1 1. 認定こども園

(1) 入園児の状況

(令和4年4月1日現在)

学級名		在籍園児数			備考
		男	女	計	
0歳児	ひよこ組	0	3	3	
1歳児	うさぎ組	5	3	8	(広域入所1名含む)
	こあら組	5	1	6	
2歳児	きりん組	5	7	12	
	ぱんだ組	6	6	12	(広域入所1名含む)
3歳児	こすもす組	6	7	13	(広域入所1名含む)
	たんぽぽ組	6	8	14	(広域入所1名含む)
4歳児	あさがお組	10	9	19	
	ひまわり組	11	8	19	
5歳児	あじさい組	6	10	16	
	すずらん組	6	9	15	
合 計		66	71	137	

(2) 日課表の編成・管理

園児の1日の生活 【時間】	0～2歳児 3号認定	3～5歳児 2号認定	3～5歳児 1号認定
7:00～7:30	延長保育	延長保育	時間外保育 (一時預かり保育)
7:30～ 8:30～ 9:00～ 9:10～	登園時間(順次登園) 持ち物の始末 自由遊び 午前のおやつ (0～2歳児) 午前午睡(0歳児) 散歩等	登園時間(順次登園) 自由遊び 学級活動 散歩、砂・泥・土遊び リズム遊び、絵画 製作、行事 給食準備	登園時間(順次登園) 自由遊び 学級活動 散歩、砂・泥・土遊び リズム遊び、絵画 製作、行事 給食準備
11:00～ 11:30～ 12:30～ 13:00	給食 午 睡	給食 午 睡 ※3歳児～午睡 4歳児～活動日有 5歳児～活動日有	給食 降園準備 降園(午睡) (一時預かり保育 幼稚園型)
14:30～ 15:00	起床 おやつ 自由遊び	起床・寝具片付け おやつ 自由遊び	4歳児～活動日有 5歳児～活動日有
16:00～ 16:30～18:30	降園時間(保育短時間) 降園時間(保育標準時間)	降園時間(保育短時間) 降園時間(保育標準時間)	降園時間 (降園時間)
18:30～19:00	延長保育	延長保育	時間外保育 (一時預かり保育)

(3) 職員構成

職 名	人 数	備 考
園 長(会)	1	
副 園 長	1	
保 育 教 諭	11	育休 1 名
保 育 教 諭(会)	9	
保 育 支 援 員(会)	6	1 日 6 名
保 育 補 助 員(会)	2	1 日 1 名・半日 2 名(AM1 名・PM1 名)
給食調理員(会)	3	
合 計	33	(会):会計年度任用職員

(4) 活動状況

1) 総務部 ※令和 4 年度から新設

活動方針	<p>①教職員の意見を聴取しながら、学年、分掌、組織間の連携及び調整に努め、園運営の具現化を図る。</p> <p>②園の教育・保育目標の具現化を図るため、園務システム(コドモン)の活用を図り機能の拡大や円滑な園運営に活かしていく。</p> <p>③地域及び本園の実態を踏まえ、特色ある教育・保育活動を展開できるようにしていく。</p>
実績	<p>○地域と共にある園づくりの推進(地域子育て支援の取り組みとして) 子育て支援センター通所保護者対象に「わくわくサロン」を実施し、子どもとの触れ合い遊びや遊びの教材を提供。</p> <p>○園務システム「コドモン」について 保護者連絡、お知らせの受信、登降園の確認、カレンダー、アンケート機能、週日案、指導要録、出席簿管理など。</p> <p>○こども園説明会について 説明会、見学会、進級児説明会、新入園児個別説明の実施。</p>
現状及び成果	<p>・園務システムコドモン導入では、説明会などを通じて周知、利用を開始した。帳票の作成や記録報告業務を実施することで、業務の工夫を行うことができた。</p> <p>・わくわくサロンでは、教材が保護者の手元に届き、子どもとの遊びの時間や親子の触れ合いに活かしてもらうことができた。</p>
課題	<p>・コドモンを軌道に乗せ、0・1 歳児の連絡帳機能、午睡チェック、教育保育課程など、機能を拡大していくことが必要である。</p> <p>・コロナ感染症のため、子育て支援センター事業への参加ができなかったこともあり、次年度は、事業に参加・協力してこども園の役割の一つである地域子育て支援の取り組みとして推進していきたい。</p>
方 策	<p>・保護者に対してわかりやすい園運営につながるよう具体的にコドモンの発信を進めていく。</p>

2) 教務部 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止により、運営内容に中止・変更があった。

重点目標	①遊びの中で幼児が発達していく姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」として頭において活動や生活となるように進める。
実績	<p>○式典:始・終業式は予定通り実施。入・卒園式は、時間や参加人数を制限するなどの対応を進め実施。修了式は、3・4 歳児と一緒に遊戯室で実施して記念品を園長からもらい、未満児は各学級にて手渡した。</p> <p>○園行事:未満児と以上児で分散して各学年、各学級で実施。お集まり会は、歌は歌わずに、園長の話と体操を実施。3 月は、3～5 歳児で行うことができた。</p> <p>○幼年消防クラブ活動は、防火ポスター配布を4・5 歳児で分散実施。防火パレードは、5 歳児のみ参加して実施。</p> <p>○ALTとの触れ合い(交流)は、予定通り実施。各学級、学年で実施。</p> <p>○参観日は、7 月に3～5 歳児各学級で実施。0～2 歳児は実施できなかった。</p> <p>○祖父母参観日(5 歳児)は、各学級で実施。カレーライス作りは、実施しなかった。</p> <p>○お別れ会(5 歳児)は、各学級で実施。</p> <p>○静寿園訪問、ケアハウスとの交流は、実施できなかったため、DVD で運動会や発表会の様子を知らせメッセージ入りの絵を届けた。若がえり学級との交流(4 歳児)は、2 月に実施できた。</p> <p>○教育実習 4 名、保育実習 2 名を受け入れた。</p> <p>○学校間交流は、訓小、居小に入学する該当園児が学校探検を実施。中学 3 年生との交流は予定通り実施した。</p> <p>○学年交流は、2 歳児が 3 歳児、3 歳児が 4 歳児、4 歳児が 5 歳児の朝の会を見学して何回か一緒に活動することができた。また、0～5 歳児の回廊に展示された絵や作品を見合うことで、進級への期待や喜びにつながった。</p>
現状及び成果	<p>・「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を念頭におき、0～2 歳児、3～5 歳児で週の打ち合わせや学年打ち合わせなど、方法の工夫や話し合いを行い、保育の中で意識し合うようにしたことが効果的であった。</p> <p>・異年齢交流は、コロナ対策で実施が難しかった。学年、学級単位での実施が多かった。しかし、3 月に緩和されたことで、前年度よりも交流する機会があった。改めて交流することが園生活の豊かさと、進級や就学の見通しにつながった。</p> <p>・園生活において、経験の差とならないように、日時や内容の変更、分散開催など子どもたちの健康と安全を一番に考え、これまでの行事を検討し、可能な形で実施した。</p>
課題	<p>・コロナ対策のため、調理や飲食を伴う活動は、実施しなかった。今後は、全ての行事に関して、以前のように実施できるようになるが、実施方法を検討する必要がある。特に、地域の人やお年寄りの方との直接的な交流が実施できなかったが、人と人をつなぐ大切な行事であるため、内容を検討しながら、実施する必要がある。</p>
方策	<p>・コロナ下における経験を生かし、適切な教育・保育を探り、異年齢、学年、学級、個々に合わせた発達の促進につながる内容となるように検討していく。</p> <p>・幼児一人一人の発達に必要な体験が得られるように「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を意識して活動を進める。</p>

3) 保育部 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止により、運営内容に中止・変更があった。

重点目標	<p>①保育課程の実践・評価の見直し・改善に努める。</p> <p>②乳幼児の実態の把握、保育内容と対比しながら日々の保育実践に検討を加え、保育の充実に努める。</p> <p>③保育課程の編成・保育実践・評価の見直し・改善に努める。また、具体的な教育・保育課程の作成に努める。</p> <p>④教育・保育課程に基づき週日案を作成し、保育が適切に展開されるよう努める。</p>
実績	<p>○園内外の環境の有効活用と整備に努めた。</p> <p>○たて割り保育は、9月後半に4・5歳児がレクリエーション公園へ行くことができた。3月3日に、3・4・5歳児がたてわりで、中学校側堤防、小学校側堤防でシート滑りを行うことができた。</p> <p>○リズム遊び(0歳児は11月から、1・2歳児は8月から、3歳児は5月から実施した。)8月以降は、コロナ対策として学級または、学年ごとに実施となった。1月からは、計画通り、0～5歳児のたてわりで実施することができた。継続的な取り組みが重要と考え普段の保育でもリズムを行うなど、学級単位でそれぞれの保育室で積極的に実施した。</p> <p>○春の遠足は、5月に予定通りの日程で実施できた。0～4歳児は、年齢に合った内容と場所で実施し、5歳児は、レクリエーション公園で親子遠足を実施した。</p> <p>○ひなまつり:学級ごとに紙芝居や絵本を通して由来を伝えた。</p> <p>○クリスマス会:計画通り、前半を3～5歳児、後半を0～2歳児に分けて午前中に実施することができた。</p> <p>○お楽しみ会:0～2歳児は、それぞれの学年を3日間に分けて分散実施した。</p>
現状及び成果	<p>・実施の仕方を工夫し、時間差や0～2歳児と3～5歳児に分けるなどして行えた。1月以降は、たてわりでリズム遊びをやつながりももつことができた。</p> <p>・課題としていたリズム遊びは、学年の最後に求めたい姿を学年毎で打ち出し、その求めたい姿に合わせて進めることができたことは大きな成果となった。</p>
課題	<p>・コロナ下で計画通りに全体で実施することや、交流をもつことができなかつた取り組みがあった。今後は、コロナ前の実施方法を見直しながら、より良い方法を探りながら進める必要である。</p>
方策	<p>・異年齢同士の交流で育つものは大きい。直接的な関わりの他にも、他学年の遊びを見学したり、製作物を見せてもらったりするなど、コロナ禍の中で間接的な交流の方法も学んだので、行事等の実施の方法や内容の検討を行いながら実施していく。</p>

4) 子育て ※新型コロナウイルス感染症拡大防止により、運営内容に中止・変更があった。

活動方針	<p>①子育てをしている親の状況を把握し、子育てについての相談や気軽に話をできる場や環境を整えていく。</p> <p>②地域の子育て中の親にも身近なこども園を目指し、安心感や親しみにつながる支援を進めていく。</p>
実績	<p>○家庭訪問(4月)</p> <p>○園開放(7月・2月実施、10月中止)</p> <p>○個人懇談(3～5歳児11月・12月実施)</p> <p>○子育て支援センター(2歳児こぐまひろば)との交流(2歳児6月・1月・3月実施、8月、10月・12月中止)</p> <p>○学級懇談会①4月:0～5歳児(夜)(学年ごとに実施)</p> <p>②7月:3～5歳児(午前)(学年ごとに実施)、0～2歳児(夜)(学年ごとに実施)</p> <p>③2月:0～4歳児(夜)(学年ごとに実施)、5歳児(午前)(学級ごとに実施)</p> <p>○育児相談会「子育てトーク」(保護者の希望に合わせ、実施)</p> <p>○子育て部だよりの発行(年4回)</p>

現状及び成果	<ul style="list-style-type: none"> ・園開放を3年ぶりに開催することができた。未就園家庭との関わりをもち、園内を案内し、こども園園児との交流を行うことができた。 ・園での様子を伝え、保護者の子育てでの悩みを聞く場として、子育てトークを必要に応じて行い、子ども理解へと努めた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の就業等により保育時間が長くなっている中で、保護者の思いに寄り添い「家庭の時間や触れ合いの大切さ」を伝える必要がある。 ・子育てにスマートフォン等を使用する家庭が増えてきているため、付き合い方については知らせていく必要がある。
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の保護者の様子に合わせながら、子育ての啓発活動に努めていく。

5) 研修 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止により、運営内容に中止・変更があった。

活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ①保育教諭としての自己学習や経験、研修を保育に反映されるように努める。 ②一人一人の理解を深め、適切な指導・援助を保育のねらいとし、様々な体験を通して子どもたちが生き生きと活動できるよう研修を進める。 ③保育教諭の乳幼児への援助のあり方について研修を進める。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○3施設合同研修会(コロナ感染拡大防止のため中止) ○定例研修会 全14回実施 ○保育公開勉強会 全4回実施 ○幼小連携検討会議:年1回実施(11月) ○各種研修会、講習会への参加(ほとんどがリモート開催) ○園内研究会(9月・12月)～コロナ感染拡大防止のため、園内のみで実施。指導主事、幼児教育相談員、教育専門員の参加はなし。 ○管内研究部会(研究部長、担当保育教諭が参加:5月、7月、1月) ○北海道国公立幼稚園・こども園教育研究会の参加～Zoomで参加
現状及び成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新主題を設定し、研究の構造図を作成することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・0～5歳児のつながりをもった教育・保育の充実。ICTの活用。
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・定例研や打ち合わせ等において、保育教諭間の学び合いを深めるとともに、研修に積極的にICTを活用していく。

6) 健康・安全 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止により、運営内容に中止・変更があった。

活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ①日常生活に必要な基本的生活の習慣化に努める。(生活面) ②日常生活の中で安全について繰り返し指導し、危険を避け、身を守る態度や習慣を身に付けさせる。(安全面) ③いろいろな運動や遊びを通し、体力を養う。(健康面) ④子どもが健康で楽しく、かつ安全に園生活を過ごせる環境をつくる。(安全面)
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○健康指導に関することは、健康診断、身体測定、歯磨き指導を計画通り実施、保健だよりを年4回発行した。フツ化物洗口については、実施できていない。 ○体力作りに関することは、体操、マラソン(5歳児)、縄跳び(4・5歳児)、カッププール活動(4・5歳児)、スポーツセンター活動(年5回)、体力測定(5・2月)を実施した。 ○安全指導に関することは、安全指導、スクールバス乗車指導、CAPワークショップ、園内安全点検を予定とおり実施した。避難訓練は、火災、地震、不審者の他に、水害時の訓練も計画し、行った。 ○体育的諸行事に関することは、運動会(2部制実施)、秋の遠足は場所を変更して実施した。5歳児は、園外保育として12月に北網圏文化センターに行った。
現状及び成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの安全を第一に考え、指導や実践を進めてきたことで、1年間、大きな怪我や事故がなく、園生活を送ることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・3～5 歳児を中心に、マラソンや雑巾がけ、縄跳び遊びを通して、体力の向上を進めることができた。 ・スポーツセンターとの交流は、年 5 回実施した。指導員との運動遊びやボルダリング、トランポリンを体験することができた。 ・新型コロナウイルスの感染が広がる中であつたが、できることを考え、方法を変え、行事等を実施することができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、体力測定を 5 月と 2 月の 2 回実施した。スポーツセンター職員にも協力してもらい、正しい方法や測定を行うことができた。ただ、1 度の結果のため、どのような体力向上の活動を取り入れていくかまだ分かっていない。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、体力測定を行い、データを取り、分析していく。

7) 文化・厚生 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止により、運営内容に中止・変更があつた。

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①発表会や誕生会など、各種の文化的行事を通して、創造力や豊かな感性を養うとともに、協調性や自己表現力など、社会性の基礎を培う。 ②絵本や紙芝居など、視聴覚機器などの教材・教具の整備を図り、豊かな感性や好奇心を育むとともに、5 領域に関わる教育・保育の質的な向上を図る。
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ○文化行事は、誕生会、七夕まつり、発表会、豆まきなど内容を変更して実施した。 ○図書関係は、管理、絵本の家の活用・充実、保育教諭によるおすすめ絵本の紹介、移動図書の活用、行事関係ビデオの視聴、園長・副園長による読み聞かせの実施、図書だよりを発行(年 1 回)した。 ○花壇・菜園活動は、給食・食育部と連携して行った。
現状及び成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症のため、文化的行事は、内容の変更、人数の制限などを行いながら実施した。 ・保育教諭のおすすめ絵本を掲示したことで、保護者や子どもたちの目に留まり、興味をもってもらうことができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症のため、行事のねらいを達成できるよう、活動内容の工夫が必要である。 ・絵本の家の絵本や、紙芝居の整理・管理を行うことと、絵本の家の利用の普及や仕方について、子どもや保護者に知らせるようにしていく。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・文化的行事に関心をもち、豊かな体験となるための計画が必要である。 ・子ども、保護者への読書活動への啓発と、保育教諭も積極的に絵本・紙芝居などの教材を活用し、子どもの想像力や言葉への興味関心、豊かな感性を育める環境を整える。

8) 給食管理・食育 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止により、運営内容に中止・変更があつた。

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日の食事を通して、心身ともに健康な体を育む。 ②食事に関する正しい知識を身に付け、健康で豊かな食生活を実践する。 ③食育に関心をもち、家庭や地域の中での食育を実践する。 ④地産地消や旬の食材について学び、毎日の食事の中で実践する。
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ○銀河農園や園の畑を利用し、野菜を育てる過程に触れ、実際に収穫して食べることもできた。 ○焼き芋は実施することができなかったが、調理室で調理をしてもらい、自分たちの収穫したものを食べることもできた。 ○菅野養蜂場との交流は、今年度行うことができなかった。 ○米太郎倶楽部との交流(5歳児)は、新型コロナウイルスのまん延のため実施できなかった。 ○管理栄養士との触れ合いを学級ごとに行い、交流と個々の食事の指導から学びを深めることができ、食事に関する正しい知識につながった。また、4・5歳児は、

	<p>管理栄養士と交流を図りながら、折り紙や毛糸などの教材を使い、栄養バランスを考えたお弁当づくりを楽しむことができた。</p> <p>○わくわく食育ウィークでコドモンの配信を通して保護者にこども園での給食、おやつなど、食育活動について伝えることができた。</p> <p>○移動キッチンを利用し、ポップコーン作りを楽しむことができた。(5歳児)</p> <p>○給食に関する基礎調査を行った。アレルギー対策については、マニュアルに従い、アレルギー調査を行い、対応策を整え、運用した。</p>
現状及び成果	<p>・管理栄養士との触れ合いにおいて、食事のマナーや栄養バランスについてなど、関心や学びを深めることができた。また、4・5歳児は、「お弁当づくり」に取り組むことで、保護者も栄養バランスを意識し考えてお弁当を作ってくれ、親子で関心を深めることができた。</p> <p>・野菜等の栽培や収穫をし、直接体験から、食への関心を深めることができた。旬の野菜を収穫し、子どもたちの食べる喜びや栄養価の高い旬の野菜を食べることで、健康につながることを学んだ。</p> <p>・地域との交流では、野菜倶楽部との交流の中で、豊かな食の体験ができ、子どもたちにとって食に対する興味・関心の深まりにつながった。</p> <p>・米太郎倶楽部や菅野養蜂場との交流は、今年度行えなかった。食に関わる様々な方との交流を通して、食に対するの興味関心を広げていけると良い。</p>
課題	<p>・地域との交流を食育の実践につなげる活動を検討する必要がある。</p> <p>・地域の食に関わる方との多様な形での交流。</p>
方策	<p>・今までは園内での交流を中心としていたが、種まきを一緒に行うなど実践的な関わりを通して食に興味をもてるようにしていく。</p>

9) 特別支援

※新型コロナウイルス感染症拡大防止により、運営内容に中止・変更があった。

活動方針	<p>①園児の良い面や困り感に気付き、個々の思いを汲み取り発達の特性を理解し、個に応じた支援・指導を行う。</p> <p>②集団生活を通して、個に応じた自立や社会性など、総合的な発達を促していく。</p>
実績	<p>○園内特別支援委員会(5・2月)</p> <p>○訓子府町版「育ちの手帳」作成(5名)</p> <p>○ケース会議(毎月1回)</p> <p>○園内教育支援委員会(11月)</p> <p>○パートナーティーチャー派遣事業(8・11・2月)※うち、リモート1回</p> <p>○発達支援事業(年2回)</p> <p>○年中児健康相談(全4歳児対象)</p>
現状及び成果	<p>・支援を要する子の理解を深め、支援員や保育教諭同士で情報共有やグループワークを行うことで、よりよい手立てを考え合うことができた。</p> <p>・発達支援事業や年中児健康相談、パートナーティーチャー派遣事業を通じた専門家からのアドバイスが、幼児への関わりや保護者との共通理解に効果的であった。また、直接、専門家に困り感を相談することができ、保育に生かすことができた。</p>
課題	<p>・特別支援教育について関わっている家庭と関わっていない家庭がいるため、特別支援教育の理解が十分されていない。</p> <p>・ケース会議の内容の深まりに繋げるために、保育での困り感を積極的に記録に挙げ、全体で話し合う時間を設ける必要がある。</p>
方策	<p>・特別支援教育についての理解を深めるため、保護者に対してお便りやコドモン等で啓発していく。</p> <p>・ケース会議は、日常の困り感を話し合える場として、月の記録から事例検討の議題についてピックアップし、支援員や保育教諭間で手立てを考えていく。</p>

1 2. 児童センター

(1) 目的・現状

児童センター「ゆめゆめ館」は、児童に健全な遊び場を提供し、心身ともに健康で豊かな児童を育むための施設として、平成 25 年 4 月に開設されました。対象は小学校 1 年生から 6 年生までの児童で、保護者の就労等の理由により留守家庭となる児童を対象とした「児童クラブ」に加え、無料で自由に利用できる「自由来館」があり、多くの子どもたちが利用しています。

児童クラブ児童は、平日は放課後から、学校休業日は 8 時から開館しており、18 時 30 分まで利用できます。それ以外の児童は、自由来館児童として、平日は放課後から、学校休業日は 10 時から来館し 16 時 30 分まで利用できます。

今までは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、自由来館児童の利用を曜日ごとに学年を制限しながらの運営しておりましたが、今後は 5 類感染症へ移行することに伴い、状況を見ながら自由来館利用の緩和をしていきます。

(2) 利用実績

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
開館日	282 日／年	292 日／年	293 日／年
児童クラブ	延べ 5,987 人／年	延べ 7,397 人／年	延べ 7,027 人／年
自由来館	延べ 6 人／年	延べ 42 人／年	延べ 178 人／年
合 計	延べ 5,993 人／年	延べ 7,439 人／年	延べ 7,205 人／年
備 考	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和 2 年 2 月末より自由来館児童の利用を制限。令和 4 年 1 月からは、曜日ごとに学年を制限している。		

(3) 活動状況

事業名	放課後児童健全育成事業				
目 的	子どもの発達段階に応じた遊びや生活を通して、自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等により、子どもの健全な育成を図る。				
実 績	区分	回数	実施月日	内 容	人 数
	年間行事	5 回	8/3・10/26・ 12/23・2/3・ 3/29	七夕会、やきいも、クリスマス会、節分、春のお楽しみ会 ※コロナ対策で一部中止	延べ 72 人
	チャレンジデー	11 回	毎月(4 月除く) ※2 日に分けて実施	カタキ、なわとび、こま、けん玉、ドッジボール、紙ひこうき、一輪車、竹馬	延べ 159 人
	手作りウイーク	11 回	毎月の 1 週間	母の日カード、父の日カード、工作、手芸他	延べ 282 人

実績	区分	回数	実施月日	内容	人数
	検定の日	11回	毎月(4月除く) ※2日に分けて実施	なわとび、竹馬、一輪車、こま、けん玉、フラフープ	延べ136人
	アニメシアター	10回	毎月(4月除く) ※10月中止	日本昔話、トムとジェリーほか	延べ224人
	ゲーム集会	実施なし		※コロナ対策で事業中止	延べ0人
	みつばちクラブとの交流	実施なし		※コロナ対策で事業中止	児童クラブ・自由来館 延べ0人
みつばちクラブ 延べ0人					
現状及び成果	<p>令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため自由来館利用を学年ごとに制限を行いながらの運営となり、平均登録者数は児童クラブで46人、自由来館で12人計58人の登録で、延べ5,993人の利用があった。自由来館については利用を学年ごとに制限を行いながら受け付けたが、利用人数は激減することとなった。</p> <p>活動は、七夕会やクリスマス会などの年間行事のほか、こまやけん玉などチャレンジデーとそれらの検定の日、手作りウイーク、アニメシアター、ゲーム集会などを計画したが、感染予防策を徹底しながらの実施のため回数の減った行事もある。教育支援員による学習支援は継続することができたが、みつばちクラブとの交流を実施しないなど、コロナ禍において活動内容への制約があった。</p> <p>特別な支援を要する児童の対応のため、特別支援員の継続配置を行っており、令和2年度からは児童センター長の専任化を行い、支援体制の充実を図っている。</p>				
課題	<p>保護者の就労形態の多様化により、利用児童や特別な支援を要する児童が増えてきていることから、これらに対応した支援体制の充実と児童が自由に活動や学習、遊びができる環境整備を引き続き進める必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、自由来館利用の制限緩和をしていく必要がある。</p>				
方策	<p>特別な支援の必要な児童の利用に伴う特別支援員の継続配置を行うなど、支援体制の充実と必要な環境整備を図っていく。</p>				

13. 子育て支援センター

(1) 目的・現状

子育て支援センターは平成22年7月に開設され、0歳から就学前までの親子が思いっきり遊んだり、保護者が子育ての不安や悩みを和らげたり、これから母親になる方も安心して子育てができるよう応援しています。運営面では、広い施設での自由開放を多くし、来所しやすい環境を整え8時半から4時半まで受け入れを行って、こども園の送迎の帰りにも気軽に立ち寄って遊んでいけるようにしています。

こども園に入園する未満児の子どもたちが年々増加し、来所者数は減少傾向となっています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染防止対策を取りながら開館しています。

(2) 利用実績

区 分	自由解放			遊びの広場		
	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
開設日数	241	242	228	61	53	55
組 数	1,689	1,456	1,203	271	224	252
延べ人数	3,724	3,537	2,687	570	548	555
備 考	令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ひだまりひろば等の事業は状況をみながら事業の中止や内容の縮小を行いながら実施した。					

(3) 活動状況

1) ミニ講座

目 的	子育てを楽しく学ぶ機会をつくり、子育てで悩んでいる保護者がリフレッシュをして、子どもに笑顔で向き合えるような取り組みを目的とする。
実 績	開催日：5/20 6/17 8/24 9/2 11/11 12/9 2/15 3/10 親子組数 59 組、延べ人数 104 人
現状及び成果	予定していたミニ講座は、ほぼ実施することができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため長期延期となっていた調理を伴う講座は、講師の実演と試食の持ち帰りに変更したことにより、ゆっくり話を聞くことができた。昨年度に比べ開催する機会が増え、参加したお母さん方には好評だった。
課 題	保護者に必要な講座が実施できるように配慮する。 コロナ禍で出来なかった講座の実施。
方 策	普段から保護者の悩みや関心事をキャッチするよう心掛ける。 感染対策など考えながら実施できるための工夫を図る。

2) 託 児

目 的	町内に居住する子どもを持つ親（保護者）が育児や援助を必要としたときに、地域ボランティアの協力者が支援サービスを提供し、保護者が安心して子育てができる環境を整えることを目的とする。
実 績	個人託児 74件 74人(無料券28件28人)、集団託児 25件 116人
現状及び成果	個人託児のうち無料券の利用が3分の1あった。新生児訪問などで周知してくれているので、うまく無料券の制度が活用されているように感じる。また個人託児事業がずいぶん定着したように思う。 集団託児は、新型コロナウイルスの感染状況によって、託児を中止することもあった。託児の際は、感染予防対策をとって行った。
課 題	個人託児を利用している保護者からは、「もっと託児を利用したい」との声がある。1歳6ヶ月までは託児無料券があるが、それ以降は支援制度がないので、助成制度などがあつたら良いと思う。 託児ボランティア「メロンキッズ」会員の高齢化、1年を通して活動できる会員や新規会員不足などの課題がある。
方 策	「メロンキッズ」の高齢な会員でも負担が少ない配置の配慮。また職員、会員ともに新規会員募集の活動を積極的に行う。

3) 子育て相談

目 的	子どもの発達や子育ての悩みなど、一人で悩んでいる保護者に寄り添って話しを聞き、相談に乗ることにより、保護者の不安を和らげ、子育てに明るく向き合えることを目的とする。
実 績	遊びの中での相談 56件、子育てサロンでの相談 1件
現状及び成果	保護者は日々の子育ての悩みを普段の来所時に子どもと遊びながら、気軽に話すことによって解消できているように思う。また、保護者同士が子育ての悩みを共感したり、情報交換したりするなど交流の場になっていた。 相談後も保護者とは、その後の経過も聞きながら様子を見守ることができた。 相談によっては作業療法士の発達相談（年2回）や北見市子ども総合支援センター「きらり」につなげた。専門的な視点で継続的に子どもを見守ることができ、保護者の安心感になっている。
課 題	保護者は、子育てに不安を感じたり迷ったりすることがあるため、支援センターでは気軽に話しやすい環境作りが今後必要である。
方 策	何気ない会話や、安らいだ雰囲気の中で、保護者の思いや悩みが出せるよう、聞き手側の支援員が日々余裕をもって備え、心身に対応する。また、ケースによっては保健師とも連携しながら親子を見守っていく。